

KODAK Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10

KODAK

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

Black

式内神社考證 桑田郡之部



冊次	冊數	番號	類別	架號
	壹七		貳貳壹	

拾



319



表紙 8 L07001

目録

桑田郡十九座
内國幣社
一座除之

桑田神社

小川月神社

神野神社

阿多古神社

志田神社

伊達神社

石穂神社

三宅神社

三縣神社

山國神社

小幡神社

松尾神社

大井神社

與能神社

多喜神社

鍬山神社

村山神社

蕪田野神社

桑田郡式内十九座

京都府文庫

桑田郡式内十九座

桑田神社考證山本村請田神社上申書及保津村請田神社上申書并繪圖ヲ後ニ附

京都府文庫

桑田神社

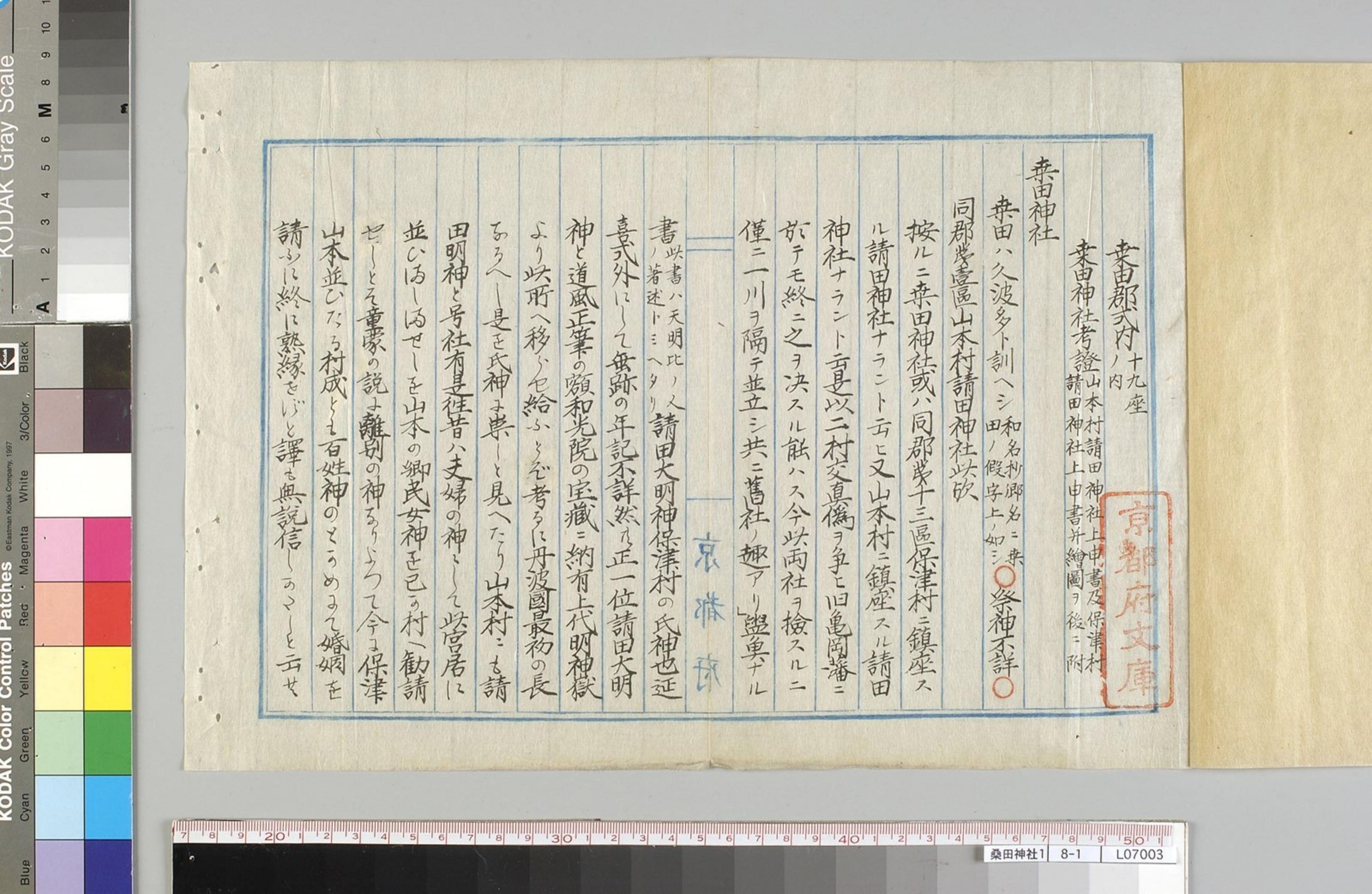
桑田ハ久波多ト訓ヘシ和名抄卿名ニ桑田ノ假字上ノ如シ○祭神不詳○

同郡葦壹區山本村請田神社以故

按ルニ桑田神社或ハ同郡葦十三區保津村ニ鎮座スル請田神社ナラント云ヒ又山本村ニ鎮座スル請田神社ナラント云是以ニ村交真偽ヲ争ヒ旧亀岡藩ニ於テモ終ニ之ヲ決スル能ハス今以兩社ヲ檢スルニ僅ニ一川ヲ隔テ並立シ共ニ舊社ノ趣アリ鹽魚ナル

京 津 球

書以書ハ天明比ノ人ノ著述トミヘタリ請田大明神保津村ノ氏神也延喜式外ニシテ無跡ノ年記不詳然ル正一位請田大明神と道風正筆ノ願和光院ノ宝藏ニ納有上代明神獄より以所へ移ルセ給ふとを考るに丹波國最初の長あろへし是正氏神ヲ崇ムと見ヘたり山本村ニも請田明神と号社有是往昔ハ夫婦ノ神トシテ此宮居に並いほしほせし山本の郷民女神正己村ハ勸請せしとる童蒙の説ニ離別の神ありよつて今ニ保津山本並ひたる村成とも百姓神のともめりて婚姻を請ふに終に熟縁をばと譯も無説信しあまると云せ



村董の口号申(ころ)に記すト云々又同郡ノ住人楠
由之進カ祖先關正綱ナル人丹波志ヲ編輯セントテ
記聚メタル草稿ノ内ニ正一位請田大明神祭神大山
咋尊也山本村ノ北ニアリ此神往古ハ浮田明神ト云
今ハ請田明神ト唱フ往古桑田ノ湖水ヲ山本ノ山間
へ切開キ玉ヒシ神也ト延喜式神名帳ニ桑田神社ア
リ又桑田郡ノ郡名ニ桑田郡アリ今桑田郡モ桑田神
社モ其所慥ニ難知同郡保津村ニモ請田明神ノ社ア
リ今俗ニ山本村ノ請田明神ハ保津村ノ請田明神ノ
分社ト云ヒ又保津村請田明神ノ神職ノ者ノ説ニ曰

京 橋 球

保津村是桑田郡ナレハ保津村ノ請田社ヲ桑田神社
ト号メ尤ナリト正綱考ルニ六郡ノ内何レノ郡ニテ
モ郡郷ノ始リノ地ハ其境地四方ニ開ケシ中土平曠
ノ地ナリ支ヨリ四方へ其地形ニ隨テ郷村ヲ裂配セ
シモノト見ヘタリ今保津ノ土地ヲ見ルニ前ハ大井
川東ハ山手ニテ其經ッ村内ノ地面ハ坂ノ如ク成ル
山手ヲ開発セシ土地ト見ヘ桑田郡ノ始メ桑田郡ト
称スベキ土地トハ不見又矢田由ヲ見ルニ亀山城ノ
西へ續キ村數二十六ヶ村曠々タル平地ニテ實ニ桑
田郷トモ称スベキ土地ナリ殊ニ城州ヨリ取付ニメ

一國ノ戸口ナリ是ヲ以テ考レハ矢田庄内山本村ノ
請田社即チ桑田神社ニメ保津村ノ請田社ハ異説ナ
ラシカ然レモ往古山間ヲ切開キ玉ヒシ神ナレバ山
本保津ノ左右大井川ノ水戸口ナレハ左右モニ勸請
セラレシマ直偽未タ不可知山本村ノ社地ハ大井川
ノ水戸口ニ近シ故ニ愚考ニ山本ノ方元ナランカト
察ス後人ノ眞正ヲ俟ツトミヘタリ彼鹽真ニ所謂道
風ノ正筆正一位請田大明神ノ古額ナルモ今尚保津
村ニアルヲミレハ同社ハ是古來請田ト称スルヲ
知ルヘシ况又關正綱ノ考證ノ如ク桑田神社ハ桑田

京橋 塚

即ニアルヘク桑田邸ハ必ス創メテ開墾ノ地ナルヘ
ク創メ開墾ノ地ハ蓋シ保津村ニ非ルヘキヲマ然則
保津村ノ請田神社ハ是桑田神社ニ非ルナリ山本村
ノ古キ水帳ニ神社ノ辺リ一圓ニ字桑田ト書シ又同
村古老説ニ古來ヨリ桑田神社ト唱ヘシヲ正徳五年
ノ比吉田家ハ神位ヲ請出タルトキ正一位請田神社
ト書下ケアリテ其後桑田神社ノ号自ラ埋滅スト云
ヲ考フレハ蓋シ桑田神社カ

因云桑田寺同郡茂大區寺村ニアリ與能神社ニ近
シ此辺古ハ宗我部邸ト云蓋同寺ハ後以所ニ移ル

京都府第壹區桑田郡山本村

鎮座山 白鳩山

諸田神社 若久桑田神社カ

祭神

大山祇命
市井鳴雄命
大山作命

由緒

神官家系無シ、
嘗社儀者古来ニリ桑田神社ト申傳レ来候
夏正徳五年ノ頃吉田殿ノ神位願出候所
正一位諸田大明神ヲ御書下ニ相成事以前迄
者桑田神社ト稱シ候、相違事之由古来之
傳説、俄然ニ雷天現之頃迄者舊記遠
文ニテ首ニ候趣候所昔天相四年二月三日
嘗社大火ニリ其節書殿不踏焼失江家

今確証ナ可相成書願事ニ至リ候所昔嘗
社古ノ水隈、嘗社中鎮座ニ山麓ニ一因テ字
桑田ノ記載有ニ此迄ヲ以テ考證ナ可仕候

勸請年月 不詳

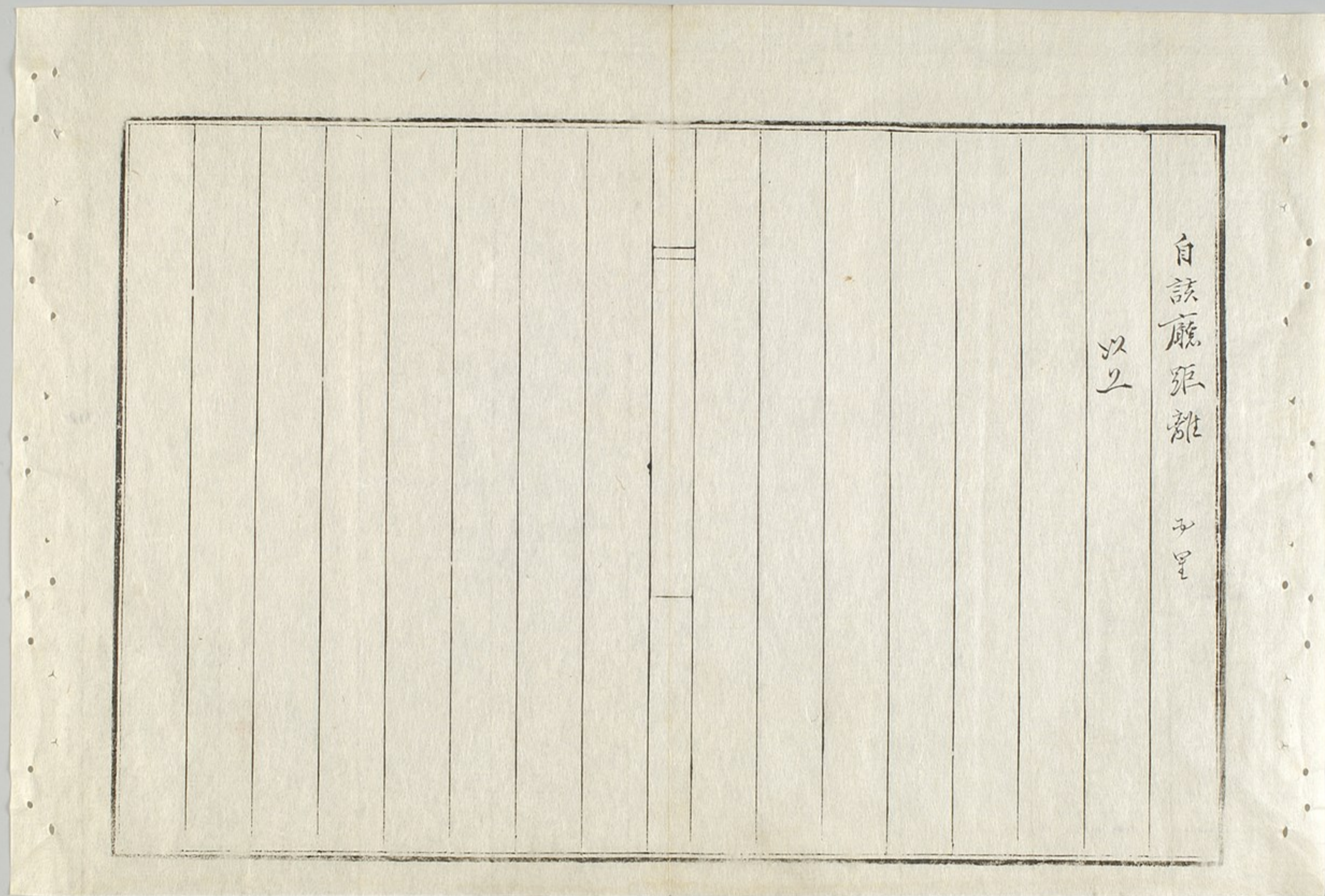
例祭日 〃月十八日

社殿建坪 拾六坪六尺七

境口互別 千高拾坪七步舊境ノ
敷十步拾坪七步

舊社領 無之

氏子戸數 三百八拾軒



自該廳距離
以之
少星



桑田神社6 8-1 L07008

山本
請田神社



京都府葛城三區桑田郡保津村

鎮座

字谷口

請田神社

若久桑田神社カ

祭神

大山咋命

由緒

傳曰遠大古丹波國湖也大山咋神火喜水水
洞之後為家郷及田地於是尊崇此神德
大堰、谿口、鎮座之社祠ヲ稱シテ浮田明神ト云
後來易存田号請田ト云田記類永祿年中兵火
ニテ燒失ス

舊神官家系管公ノ裔ニテ連綿神勢仁來候
得号家系燒失ニテ不詳寛正年間桂安道以後

當主桂玉城延拾三代神職明治六年六月當社
祠宇存命ス

勸請年月 不詳

例祭日

一月廿五日
九月廿五日

社殿建坪

三坪

境口及別

七畝步

旧社鎮

保津山及別所拾五町山從米敷石海山城之
管沼鐵部正殿より代々寄附

氏子戸數

四百拾八軒

自該廳距離

六里亦町

丹波國桑田郡桑田區保津村

請田神社

古神社之儀或因杉尾部社之説之
 之世身明棠瓦相確證可也桑田區可申
 上其稿之所由也桑田區村内以能古也
 類亦取持之向之身之取調也其傳其古社
 關係之古書類之更之世身且又其古也子
 中之所身之社身杉尾神社上之傳其
 者之無也其古日記遺文等之天正年
 中兵火言不殘燒失也其身確證也
 此所也其傳其古元之傳説也其社之
 丹波不之桑田郡之咽喉也其疎大堰
 川末流山間之白頭巖岩之頂上之結也
 國內鎮守之社也桑田神社上之傳其
 桑田中古桑田之身之浮田部社上之傳其
 桑田不之桑田山城之代也其身信也其



他部社等全式内某田神社奉返此
余生別紙書載之通取造等所望也
当此所奉申之上以上

古社初奉

明治年八月

桂 玉城



長村戸長

長尾



桂典



京都府

権知事 榎村 三郎殿



請田神社



桑由郡式内十九座之内

三宅神社考證三宅村稻荷神社上申書及繪圖ヲ後ニ附ス

三宅神社

三宅ハ美称氣ト訓ヘシ○祭神稻倉魂命○同郡葦原區
三宅村ニ鎮座今稻荷ト称ス

按ルニ鹽魚ニ云三宅稻荷亀山城下あり延喜式神名
帳桑田郡三宅神社と出り古來ハ社地も廣かりし
と天正の騷亂に破却しる少しの社也然とも社辺を
稻荷埴内と号し是古の境内と云日本紀垂仁天皇の
御宇和州纏向の都に始て屯倉を置る推古帝の十五

年國に屯倉を置て貧民を救と釋日本紀を見らば
天子の米倉を屯倉と云と也一條兼良公の説こ我
諸國を歴廻りて毎國三宅と云村有是屯倉の故
跡成べしと右数件に云つて思ふに丹州一國中此
所の外別に三宅と云所無れり當所こそ宛て此日
跡あるべしと云つて此秀方有職の人の物語を聞か
るに諸國三宅と云所毎に稻荷正一社つゝ勸請せ
り是ハ米庫を守るにめん為なりと云今考るに此
稻荷も其折柄の米穀守衛の神社成へし社辺に叢
の松と云あり西行法師の詠哥有と云々又云當

伊勢國鈴鹿郡三宅神社

類社

社之三十間斗り乾方ニ境内とつゝ三四十坪斗の所
に神明の社あり是三宅の社の廣うり此境内の攝
社ありく此社地予う幼年の比數百年にも可及榎
の大樹ありく天明の火災より枯の今ハ社
のこたりト桑下漫録以書ハ文化天保ノ比矢
部殺知ナル人ノ著述及蘭正
綱が草稿并同社縁記等皆同ニ趣ヲ云是以考フレハ
蓋是三宅神社ニ疑ヒナキナリ

京橋 珠

京都府茨賀區桑田郡三宅村

鎮座

字稻荷作

^{或曰}三宅神社

祭神

若稻魂命

由緒

神官家系延寶三年ヨリ當代金盃宮迄
神職ニテ明治六年六月當社祠當得命
當社儀往古境四四方ニシテ社頭大ニ美
麗之塚天正年中明智騷亂之時破却ニ城郭ノ
外郭ニ築立ニ當分ハ莫ク小社ニ候得共元龜山
城主代々祈願所ニ候今ニ社邊四丁四方ヲ稻荷
垣ト申是別テ大古神社ノ境トナリト故アリト傳
説ニ依

初詣年月

不詳

例祭日

四月十五日

社殿建坪

四坪

境の石別

石水七石

舊社領

無之

氏子戸数

無之

自該廟距離

五里

以上

丹波國東田郡美三區三宅村

三宅神社

右神社之像以記在取御史中其書類
天明二年卯四月四日類聚云 神職之在
宅前之却内亦燒灰其書以記遺又亦其
世所記其奈之別紙之通其遺守所記
其同此所書申上其以上

明治八年八月

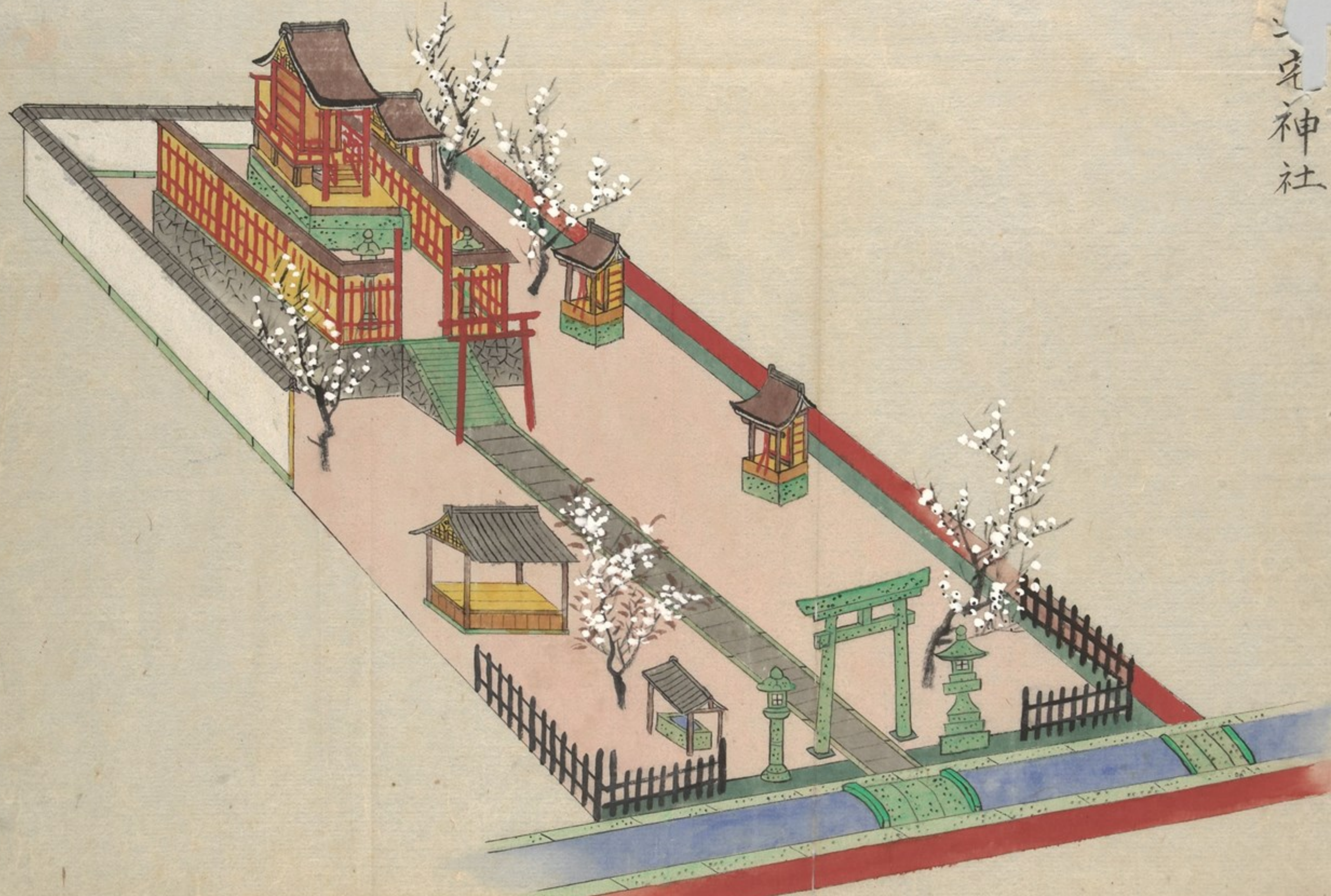
古井町
金益 勇

古井町
史達 宗馬

京都府權知事植井正宣殿

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10

三宅神社



三宅神社権部氏家系図



三宅神社 8-3 C07003

桑田郡式内十九座之内

小川月神社考證馬路村上申書及繪圖又小川村上申書及繪圖ヲ後ニ附

小川月神社名神大

小川ハ乎加波月ハ都岐ト訓ヘシ和名抄御名ニ小川ノ假字上ノ如シ

祭神月讀尊或人云天月神命也○式三名神祭ニ百八十五座丹波國小川月神社一座○同郡

幾十二區馬路村ニ鎮座ス

按ルニ小川月神社或ハ同郡幾千壹區小川村ニアリ

ト云或ハ馬路村ニアリト云フ夫小川村則古ノ小

川郷ニシテ村名モ又變セス以村ノ氏神コソ小川月

神トソ言ヘキナリサレトモ此村ノ氏神ハ曾テ須賀

京橋 珠

留神ト称ニテ小川月ノ説聞ユルヲナク桑下漫録

ニ小川月神社馬路村ニアリ所祭月讀尊也當村ノ七

丁斗西南の方田中ノ方七八間の杜有之社南向石華

表立里正のいへる大井川其古ス當村ノ東ニ流其折

柄當社大川西小川郷ニ有之依之小川月神社ト云ト

ス其後今の如川筋替リテ今ハ池辺郷ニ属ト云ト云

ヘ又鹽真ニ小川月神社池尻村ニ有トイヘトモ未考

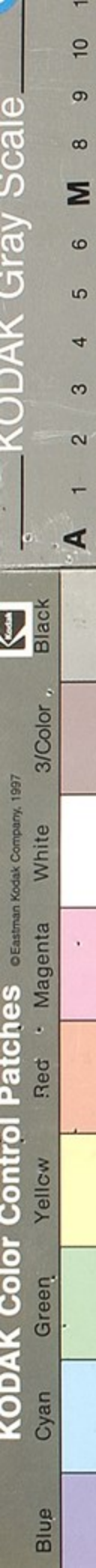
ト云ヘ是ハ馬路池尻相連ルヲ以テ彼社ノ辺リヲ池

尻村ノ領ナラント認誤リシナルヘシ池尻村

今サルヘキ又關正綱ノ草稿ニ小川月神社馬路村ノ

見團右工門ト云人ノ屋敷田ノ中ニ森有テ其内ノ小





哀 猶 疎

下小川月神後五位上

三任實録貞觀元年正月廿七日甲申奉授丹波國後五位

神位

山城國綴喜郡樺井月神社

類社

祠是也トミハ又馬路村小川月神ト称スル社ノ辺リ
ノ田畠ヲ字月讀ト称スル等ヲ以テ之ヲ推ハ小川村
ノ氏神小川月ニ非ス馬路村ノ方ヲ正シトナスヘシ



京都府第拾貳區東四郡馬路村

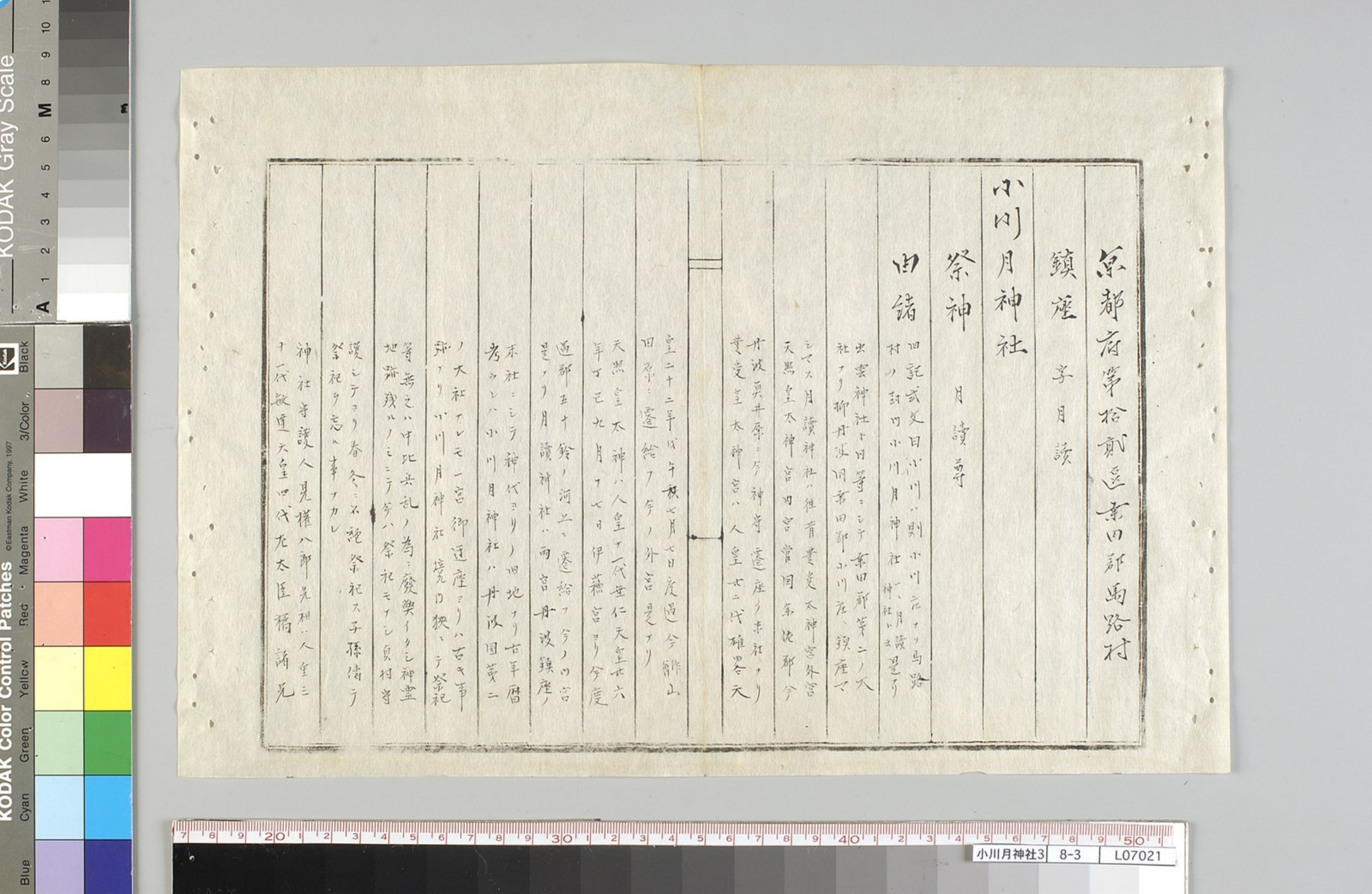
鎮座 字月讀

小川月神社

祭神 月讀尊

由緒

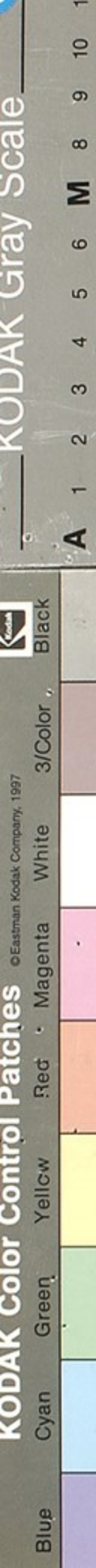
旧記式文曰小川ハ別小川在リ馬路
 村ノ封内小川月神社一。月讀尊ノ
 出雲神社ト曰等ニテ東田郡等ニノ天
 社ナリ抑丹波同書曰郡小川在。鎮座マ
 シテス月讀神社ハ往昔豊後太神宮外宮
 天照皇太神宮内宮管同第拾郡分
 竹波真井原ニテ神守。遷座シテ未社ナリ
 豊後皇太神宮ハ人皇七ニ代雄略天皇
 皇二十二年辰午秋七月七日度過今山
 田原ニ遷給フ今ノ外宮是ナリ
 天照皇太神ハ人皇十一代垂仁天皇七六
 年丁巳九月十七日伊蘇宮ヨリ今度
 近郡五十鈴ノ河上ニ遷給フ今ノ内宮
 是ナリ月讀神社ハ向宮丹波鎮座ノ
 本社ニシテ神代ヨリノ旧地ナリ古羊曆
 考レバ小川月神社ハ丹波国美二
 ノ大社ナレモ一宮御遷座ヨリハ古々事
 跡ナリ小川月神社 境凡ク狹クテ祭祀
 等無之ハ中比兵乱ノ為ニ廢棄イクニ神靈
 地跡残ルノミニテ今ハ祭祀モナシ貞村等
 護シテヨリ春冬ニ不絶祭祀ス子孫傳テ
 祭祀ヲ忘ハ奉ナカレ
 神社守護人見權八郎光祖ハ人皇三
 十一代敏達天皇四代左大臣橘諸兄



丹波國華田郡菟捨道馬路村

小川月神社

右神社之儀或存小川月神社之確證
 あり成、屆之取調より、様所達之部
 奉り、由之、此に當社之儀を或存ノ神
 社之儀者、大社之變、以人之知、此境
 内地面之當今、三六田地トナレト七字月
 讀ト申ス、田地吉所ニ之反モ、互之、是今、
 其ノ考、證トは、其且又馬路村産七神
 之、所シモ、其所、其証トは、其、以ハ、馬路村
 之、産七神、世之、何ノ時代カ、出雲村一ノ宮
 如、多、即、能、派、氏、子ト、本、只、今、之、由、派
 氏、子、之、神、事、社、勢、之、義、ハ、御、力、之、係、不
 致、上、来、之、所、由、其、尤、當、即、神、祭、日、之、義、ハ
 往、者、十、月、十、六、日、ノ、由、何、ノ、頃、ヨリ、カ、十、月、十、日
 之、用、ニ、来、リ、其、當、今、ニ、テ、ハ、小、社、ト、本、有、之、



其事年有為之祓之即此由名也
神勢家系亦之儀其別紙書載之通
お邊無所之性其智此隨奉甲上之以上

古社護身人

明治八年八月

人見權八郎



古村戸長

中川武平大



京都府

權知事 植村正通殿

KODAK Gray Scale
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10

KODAK Color Control Patches
Black 3/Color White Magenta Red Yellow Green Cyan Blue

7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1

小川月神社6 8-3 L07024

拾一代確井流太郎從五位下信濃守
貞光ヲリ後拾三世ノ孫人見次郎貞
村平時賴朝臣ノ家臣ニ而育々將ニ最
明有時賴朝執事ニ階堂行盛ト共ニ
諸國巡行之節幸田郡小川庄鎮守
小川月神社ノ舊稱之節將賴朝
臣御尊信ニ命祈念アリ人見次郎貞
村ノ女神社之守護ヲ命セラレ其後皇
代迄ニ右代連御神勅仁奉リ候

知諸年月 不詳

例祭日 二月二日
三月十六日

正殿建坪 貳拾五坪

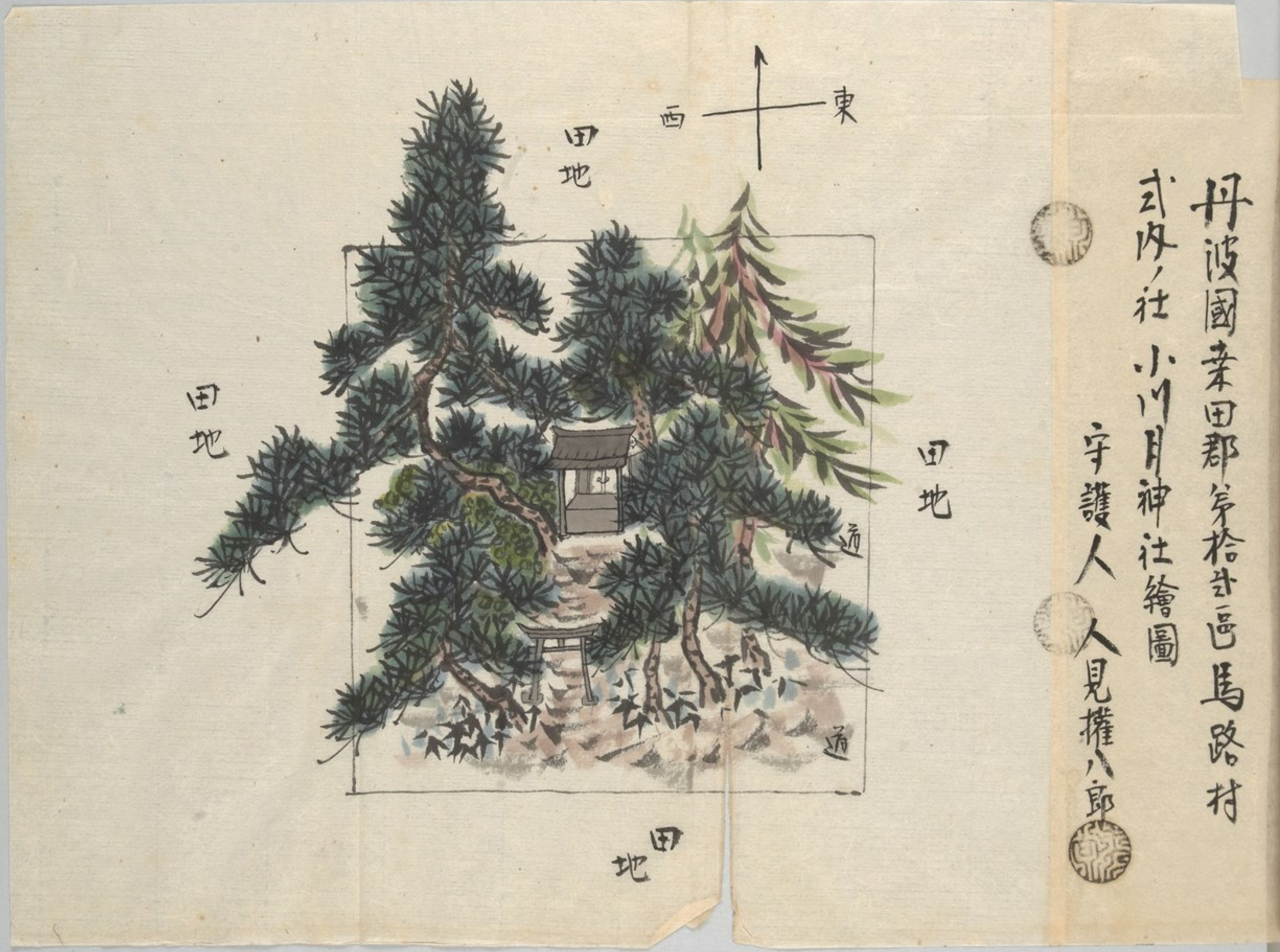
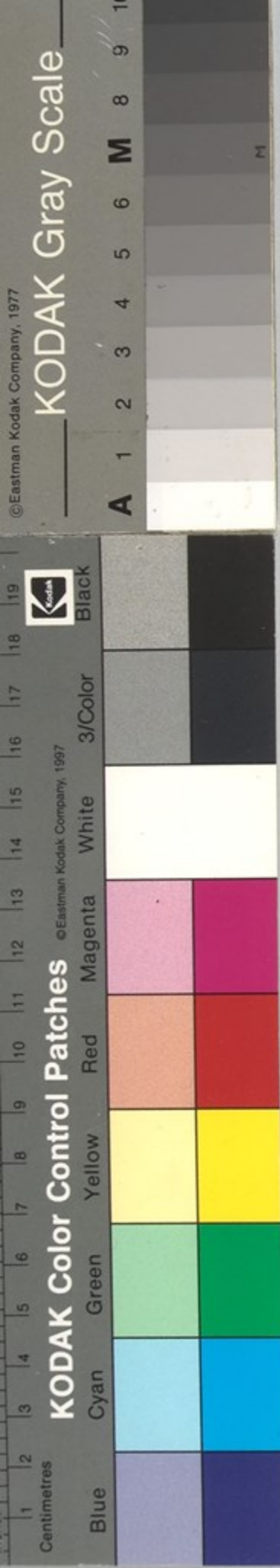
境内互別 貳拾五坪

旧社領 不詳

氏子 多シ

自該廠距離 五里半

以上



丹波國桑田郡茅拾区馬路村
式内ノ社小川月神社繪圖

守護人 人見權八郎



栗田郡式内十九座

三縣神社考證大原神社祠堂上
申書ナ後ニ附

三縣神社

三縣ハ美阿賀多ト訓ヘシ○祭神不詳○在所不詳

按ルニ当社ノ所在絶テ其説ヲ聞クナシ今大原神社

祠堂ノ説ニ同郡兼貳十三區殿村諏訪神社ノ井水ニ

字味方ノ池ト称スルモノアリ又其社ノ祭神武御名

方命ナレハ三縣ノ名ニ合ヘリト云然レトモ此説未タ慥

カナラス尚可考ナリ

京都府

傳説記

桑田郡第百一十三區

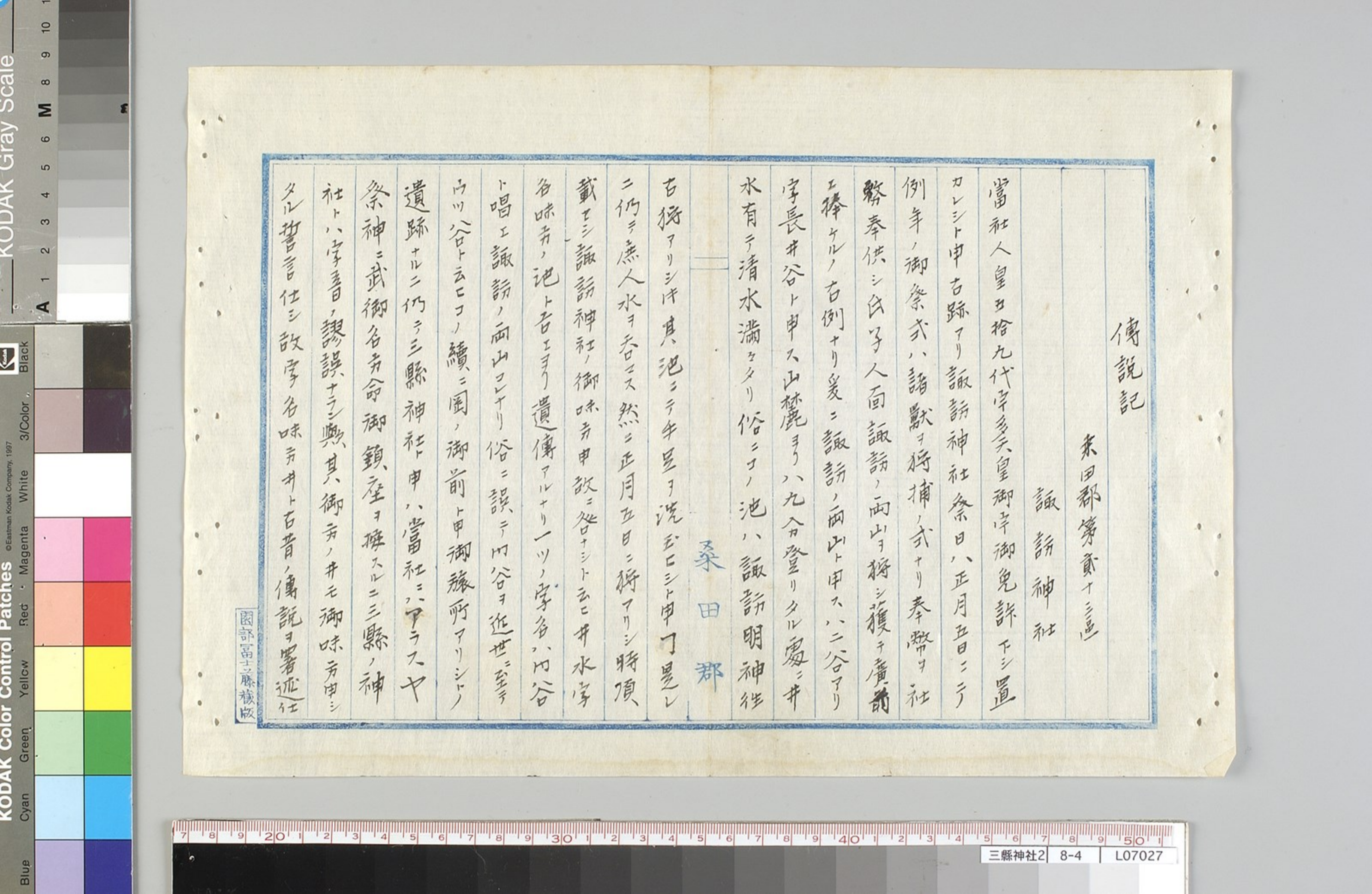
諏訪神社

當社人皇五拾九代宇多天皇御宇御免許下シ置
カレシト申古跡アリ諏訪神社祭日ハ正月五日ニテ
例年ノ御祭式ハ諸獸ヲ狩捕ノ式ナリ奉幣ヲ社
幣奉供シ氏子人面諏訪ノ両山ヲ狩シ獲テ廣箭
ニ捧ケルノ古例ナリ爰ニ諏訪ノ両山ト申スハ二谷アリ
字長井谷ト申ス山林麁マウハ九合登リタル處ニ井
水有テ清水満々タリ俗ニテノ池ハ諏訪明神往

桑田郡

古跡アリシキ其池ニテ牛足ヲ洗ヒロシト申丁是レ
ニ仍テ庶人水ヲ呑ニス然ニ正月五日ニ狩アリシ時頂
戴テシ諏訪神社ノ御味方申故ニ答テシト云ヒ井水字
名味方ノ池ト名エヨリ遺傳アルナリ一ツノ字名ハ内谷
ト唱エ諏訪ノ両山コレナリ俗ニ誤テ内谷ヲ近世ニ至テ
内川谷ト云ヒコノ續ニ園ノ御前ト申御旅所アリシトノ
遺跡ナルニ仍テ三縣神社ト申ハ當社ニハアラスヤ
祭神ニ武御名方命御鎮座ヲ據スルニ三縣ノ神
社トハ字音ノ謬誤ナラシ歟其御方ノ井モ御味方申シ
タル誓言仕シ故字名味方井ト古昔ノ傳説ヲ署述仕

園部富士藤藏版



KODAK Gray Scale
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10
KODAK Color Control Patches
©Eastman Kodak Company, 1997
Black
3/Color
White
Magenta
Red
Yellow
Green
Cyan
Blue

園部富士藤板版

桑田郡

明治八年八月

藤田元良



祠掌

大原神社

桑田郡第百十号区

何分滄昧ノ蹟蹟故御調紀之上闡瞭ノ御所置
ヲ編ニ奉仰候叩頓拜白



東田郡式内十九座ノ内

神野神社考證

神野神社

神野ハ加美乃ト訓ヘシ○祭神伊可古山城風土記云

賀茂建角身命 粟丹波國神野伊可古夜日女生子各玉依日子次曰玉依日賣○在野不詳蓋今

廢亡セルカ

按ルニ神社啓蒙云輕野社在丹波國東田郡宮脇村按

神野之轉乎ト是以後人其説ヲ當リトスルモノアリ

今ヤ之ヲ考ルニ宮脇村ハ同郡第二十二區ニアリ輕

野社又ハ道相神社ト稱ス則此邊リノ惣社ニシテ氏

京都府

子數十ヶ村ニ俣レリ而此地頗僻邑ナレハ土風只氏

神ニ由縁アルヲ以テ貴賤高下ヲ定メリ故ニ氏神ノ

由来ニ於テハ衆人喋々トシテ之ヲ辨ス皆曰當社所

祭木梨輕王子ナリ其詳ナル説ハ式外道相神社ノ下附ル書ニ明也蓋シ神

野ノ轉ニハ非ルナリ或人云神野神社ハ今同郡第八

區宮川村神尾山金輪寺ノ鎮守也ト蓋シ神尾ハ神野

ノ轉ニ非サラニカ此地最幽遂ニシテ古雅ナリ只恨

ラクハ中古醜戰ノ域ト為テ旧物今ニ存スルナク又

同寺同村ニ於テモ今其説ヲ傳ルナキナリ○又按ル

ニ宮川村氏神宮川神社ト云神尾山ノ麓ニ鎮座ス曾

テ金輪寺ノ所轄タリ是社ハ金輪寺ノ鎮守トハ又別ナリ土人説ニ云
昔丹波康頼此地ニ住居シ此神ヲ尊崇スト此亦古社
ナリ○又按ルニ同郡第ニ區湯谷嶽ノ麓湯谷村ニ玉
依神社ナルモノアリ樹木繁茂ス社頭朽木四株周リ
一文余歳百千年ノ物ナルヲ知ラス神前鈎燈籠壹對
文アリ曰兼安元年辛卯源三位頼政奉之ト其清遂古
趣凜乎トシテ平庸ノ社ニ非ス惜哉旧記傳ラス村老
ノ説ニ云山城國加茂明神ノ分社ナリト蓋シ此社玉
依彦ノ玉依姫ノ共ニ伊可古夜日女ノ子也神野神社
ニ所録アレハ後考ノ為ノ茲ニ記ス

京都府

類社

當國氷上郡神野神社

栗田郡式内十九座

山國神社考證其社上申書及繪図ノ後ニ附

山國神社

山國ハ夜万久尔ト訓ヘシ和名抄御名ニ山國假字上ノ如シ○祭神不

詳社説大己貴命也ト云蓋然乎○同郡第十九區山國庄鳥居村ニ鎮座

ス

按ルニ盪魚ニハ山國神社北丹波山國ト云所ニアリ

トミヘ素下漫録ニハ鳥居村一休大明神所祭大己貴

尊山國ハ々村ノ氏神トミヘ關正總草稿ニハ一宮大

明神鳥居村ニアリトミユ今土人ニ就テ之ヲ正スニ

京都府

一休則一宮ノ誤ニシテ一宮ハ又此庄ノ一ノ宮ト言

テ音讀ニ唱ヘ来レリト云此社古来同庄ノ産神ナレ

ハ則山國神社タルヘシ

京都府第拾九區丹波國米田郡島居村

鎮座

式内 山國神社

祭神 大己貴命

由緒

舊神官橫田惟貞明治六年六月神勅被差免 京都府貫屬士族被仰旨同年同月山國神社祠官并命

三條天皇長和五年八月依

勅願山國神社始

御靈社加茂神社春日社日吉社御再建

四條天皇天福元年立社神社石神領百貳

拾五石被相定綸旨被下置候事

後小松天皇應永六年先規之通神領百貳拾

立石綸旨被下置候事

天正年中兵亂之初神領悉之被召上唯今

至之神領無之

勸請 寶龜年中

例祭日

一月十日
九月十日

社殿建坪

拾貳坪

境内及別貳及三畝拾步 舊境内子貳百六拾貳坪

舊社領 無之

氏子戸數三百九拾五軒

自該廳距離六里餘

香樹新刻

未久側量無之付凡里
程書御座候

右之通相違無御座候以上

丹波國桑田郡茅拾九區島居村

山國神社祠官 横田惟貞



明治年七月

石村戸長

久保宗次郎



前書之通相違無御座候依り奥印仕候以上

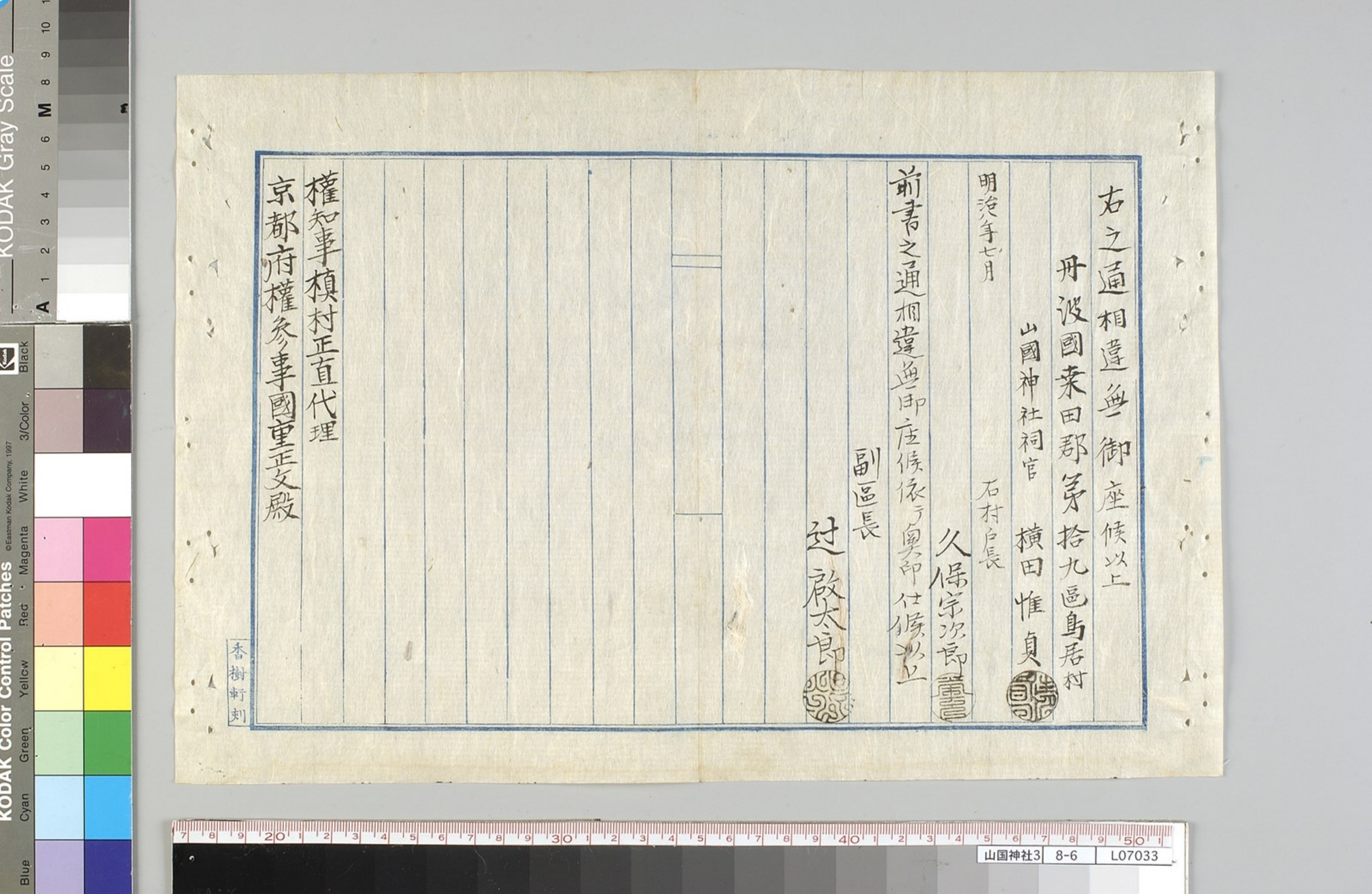
副區長

辻 啟太郎



權知事 植村正直代理
京都府權參事 國重正文殿

香樹軒刺



KODAK Gray Scale
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9

Kodak
Black

3/Color

©Eastman Kodak Company, 1997

KODAK Color Control Patches

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

丹波國桑田郡桑十九區鳥居村
式内山國神社畧繪圖



權知事植村正直代理
京都府權知事桑田重正文殿

6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90

式内山国神社 8-5 C07005

栗田郡式内 十九座

阿多古神社考證 同郡國分村愛宕神社山城國葛野郡愛宕神社上申書并繪圖ヲ後ニ

附

阿多古神社

阿多古ハ假字ナリ○伊弉册尊火産靈命○愛宕山頂朝

日峯ニ鎮座ス丹波山城兩國坂也 丹波國々分村ニモ愛宕神社アリ

按ルニ當社ハ或書ニ火皇産靈ヲ以テ山城國愛宕郡

ニ祭テ愛宕社トス其後 光仁帝ノ御宇天應元年勅

釋慶俊行勝軍地藏法丹波國栗田郡ニ移シ旧名ヲ用

ヒテ愛宕大権現ト号ストミヘ神祇拾遺神社啓蒙其

京都府

餘諸書ニモ皆凡同説ニシテ又鷹ヶ峰址ニ今尚旧址

ノ現存スレハ鷹ヶ峰ヨリ現地ニ移リシトハ最モ分

明ニ之ヲ知ル然而丹波國栗田郡國分村ニ愛宕神社

アリ是亦日古社ナリ盟貞云愛宕社國分村山下ニア

リ垂跡伊弉並尊火彦靈尊也社僧曰二十七代 継體

天皇の御宇に山城國乙訓郡より此地ニ移リまして

其後ハ行より山城國愛宕郡鷹ヶ峰の東へ跡座まゝ海

を四十九代 光仁帝天應元年に釋慶俊僧都今

の朝日嶽ニ移シ奉リ愛宕山白雲寺と号朝日嶽ハそ

のうに栗田郡の内あり今も山城葛野郡と多れり

暫愛宕郡ニまゝに故に愛宕の神号有とみへり
洛の北山大門村といふハ愛宕の宮の旧跡なりと和
哥名所追考にも書り然れハ此宮居も乙訓より當國
へ移るを給ふまゝハ愛宕の名ハ有べりといへ
とるる上代の史にして社式も魚れハそれより上
つうと此宮号ハ明がく神祇拾遺も此
事有といへとも鷹峰に鎮座以後の史の記して乙
訓より丹波へ移り玉ふ史ハ見へは於神道の長にた
よりてまゝ海ふりまむ社僧曰此森の松ハ千歳を
過たり 繼體帝の元年より元一千二百廿六年ニ及

京都府

ト今ヤ之ヲ考フルニ信友宣長ホノ説ニ愛宕ハ元神
号ヨリ出タル郡名ナリト云リサレハ此社鷹峰鎮座
ノ前ニ桑田國分村ニ鎮座セシカモ計リ難ケレトモ
式ニ預ルハ今ノ愛宕山ニ鎮座ノ神社ナルヘシ今葛
野郡水尾村又愛宕郡大悲山ノ邊丹波國桑田郡ナリ
シト古書ニミヘタリ然レハ愛宕山ハ古ヘ丹波ニ属
スルト明カナリ

神位

三代實錄貞觀六年五月十日乙未授丹波國正六位上愛
當護神後五位下同十三年十一月十一日乙未授丹波國



京都府第拾三區桑田郡國分村

鎮座 字山ノ口

愛宕神社

祭神 伊弉那美尊

由緒 不詳
旧神官家系毎之

初詣年月 人皇御拾七代延保天皇御宇初詣

例祭日 九月十三日

社殿建坪 四坪

境内反別 敷反水取拾五歩 旧坑口
菅町敷反水取拾六歩

舊社額 無之

氏子戸數 七拾九軒

自該廳距離 五里半

以上

丹波國美田郡阿多古國分村

愛宕神社

古之神社美田郡中或曰愛宕神社之
確證之可成者乃其傳之明細
取調了申上様御所古之趣ある事は以
遺書等在個中當古社殿守護古
此者之家二拾五年以前遺傳何れ古
社之書類有之其趣之詳其年數可

應子手書之正上様減取申由事書
有確證之可成者乃其傳之明細
取調了申上様御所古之趣ある事は以
遺書等在個中當古社殿守護古
此者之家二拾五年以前遺傳何れ古
社之書類有之其趣之詳其年數可

KODAK Color Control Patches
©Eastman Kodak Company, 1997
Black
3/Color
White
Magenta
Red
Yellow
Green
Cyan
Blue

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10

7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1

阿多古神社6 8-7 L07040

京都府權知事榎村正造殿
明治二十八年八月
初年官位後奉甲上共以上
榎村正造
小川正造印

京都府管下山城川島野郡第三區上嵯峨郷

鎮座

相林中最高山絶頂
号愛宕山又朝日嶺上

愛宕神社

祭神

雷神

奥御前 迦遇槌神

三柱相殿也

破无神

右ハ當社主祭之御神也

稚産日命

塩山姫命

端御前

伊弉册命

五柱相殿也

天熊人命

豊受姫命

一由緒

破无神ノ御妻何ナル神ト云フ識者ノ説未聞不可知愚
謹按此塩ノ神ナリカ其故ニ御妻婦ノ御神ナリ

且ツ下ト訛語ス不尠例也訖山ヲ多ニ山ト云ヘキヲ
多武峯ト云如キカ識者ヲ俟

當社、洛北鷹峰ヨリ移シ奉リ千九十年間沿革且
火ニ數度近ク安政年中庚午四月廿日坊舎悉火依之
社傳諸記録焼失故ニ諸書ニ依テ奉概畧記ス

桓武帝 愛宕護山ト額ヲ下賜 年月未詳

後陽成帝 愛宕山ノ額ヲ下賜 年月未詳

勸請依 光仁帝之詔天應元年酉年六月廿三日京

北山鷹峯ヨリ當地ニウツシ奉ルト云

當社、國史見在ノ社ナリ三代實錄ニ見ヘタリ又
式内ノ社ナリ

延喜式ニ丹波桑田郡阿多古神社ト是正シク當社

ノ外ニ不可在 既ニ今モ本社境内墻ヲ界トシテ丹波ノ
地ト實際スルナリ坊舎屋敷ホ何レモ丹波ノ
地ニ白跡アリ然ルニ今ノ山城ノ地ニ迁ス年月記等目錄ニテ難ク

本朝神社考ニ奉概云

玉城西ノ山ヲ名愛宕山秀出於嵯峨万仞之上實ニ灵

區也昔 文武大室中役小角欲上此山有雲遍上人云
者住菴峯峨之奧小角同行到清滝之上雲起山下
雷鳴雨降如車輪不可進也二人秘咒密言祈讓也日俄
而晴少焉地藏龍樹富樓那毘沙門放光其上因杉樹
号為清滝四所明神也小角具狀以聞 朝廷有旨立
神廬於朝日峯其後

光仁帝即位勅慶俊僧都中與此山和氣清麻呂奉行
所建也唐土表五岳白雲寺於朝日月輪寺於訖与峯

神護寺於高雄日輪寺於龍上傳法寺於賀魔藏

五寺之外管五千坊尚 桓武帝之時改宕字成

護字号愛宕護山大權現以此山為鎮護國家

道場ト云

三代實錄貞觀六年五月十日乙未日授丹波國正六位
上愛宕護神從五位下又同十四年十一月廿九日授從五
位下愛宕護神從五位上又元慶三年閏十月廿四日
庚戌日授從四位下又同四年三十日癸丑日授丹波國

愛宕護山无位雷神破无神並從五位下此後度々
進階至永德元年辛酉二月極位云

但何頃ヨリ鷹山城國葛野郡耶不知或書曰 清和帝丹波國
桑田郡水尾山寺ニ玉ツアリ然ルニ水尾村今山城國葛野郡ニ屬ス
按スルニ同時歟不知

神書曰 火皇產灵ヲ以テ山城國愛宕郡ニ祭テ愛宕

社トス其後 光仁帝ノ御宇天應元年

勅釈ノ慶俊ニ勝軍地藏ノ法ヲ行ヒ丹波桑田郡ニ移ス旧
名ヲ用ヒテ愛宕大推現ト号スト

神祇拾遺云

當社明神ノ即夏ノ久代平安城北鷹峰ノ東隣ニ坐シテ

光仁帝元年 勅釈ノ慶俊今ノ愛宕ノ灵地ヲ開キ移シ
奉也ト云

神社啓蒙云

按當社ハ昔愛宕郡鎮坐之故ニ有此名今ノ北山大門村ハ
蓋シ當宮神門之旧跡也故ニ今所祠之地雖屬於丹
波國温真故号愛宕 歟

雍州府志云

此社始在愛宕郡鷹峯北于今有石門之存而上賀茂、南ノ大門是斯ノ社ノ大門ノ所有也然ルニ

光仁天皇天應元年秋ノ慶俊移今ノ処斯山屬葛野郡然レトモ猶用旧名

同書曰白雲寺ノ条ニモ曰愛宕郡西岩川其地ニ巨石兩箇東西ニ相對而立是ヲ称岩川処々礎石存矣天應元年藤井慶俊移當山建社スト云云

水朝故事云

洛ノ愛宕ノ神ハ神係圖傳ニモ松尾ノ神書ニモ皆除火災神也トテ諸人崇敬ス其扱アリヤ曰是乃チ神代軻遇突智ハ火神也故ニ專ラ此神ハ掌火災故ニ

平安城乾ノ隅ニ愛宕山ト祭テ

王城ノ除火災云云

藝豆秋津嶋卜定記曰

戊寅仁當天王都守護ノ神明座寸即天神亦七之陰

神也火災乎永久退_年為也_{上天}若官_仁火皇產
靈於置玉奈利偏仁帝都靜謐乃基也_{ト云云}亦女_ク
神書問亦_ニ見_{タリトアリ}

拒武帝延曆二年三月廿日官符曰依八幡大菩薩
教旨于愛宕護山建立神願寺_{云云}
朝野郡載云

愛宕山ノ五峯因准大唐ノ五臺山奉為鎮護國家
毎年祀神願寺可修文殊祕法即便奏聞申置

阿闍梨先了又康和五年_{廿二日}云

大成經曰

十二月_{癸巳朔}_{丙申} 皇師遂_ニ前_テ擊_テ長髓彦
戰不能取勝于時忽然天陰雨水乃_チ有金色靈
鷄飛未止皇弓弭其鷄光暉焔狀如流雷矣時_ニ
天孫悅而勅問曰汝奇鷄神子勝神也從何處來鷄
神奏曰吾是日宮_ニ軍幡也

天照大神勅令吾往救天孫今化_カ鳥未住此國護軍戰業

天孫問云欲往何處即應奏曰山背國怨見山吾住處可佳矣
天孫勅曰好汝隨意仍住其山是即當社祈勝軍之根元
源平盛表記云

京ノ北アタゴ高雄ノ山モ昔ハ堂塔軒ヲキシリ行位ノ功ツモリ

ケレ氏一夜ノ中ニアレシカハ杯アリケレハ此時シモ兵火ニ懼リ退転スヤ

是迄社領万石余ト傳兼ス又其後應仁亂山名細川戰時

兵火ニカリ亦退転ス後細川勝元 勅ニ依テ社頭始堂宇再

建スト云 足利氏ノ
執権ノ故 信長公豊臣公寄菜園家康公里印ヲ賜リ

三代家光公ニ至テ板倉周防守ニ仰ラレテ社頭始堂宇清滝村

神橋迄更ニ造管此時ノ奉行葦浦觀音寺五時備前守出

役也 五條ノ大橋ト同年也
奉行モ同斷ナリ 以後即修理所被仰付台命ニ依テ

寺院分立愛宕社ニ附置テ寺院ハ長床坊福壽院大善院

教學院威徳院ト五坊ナリ元真言宗天台宗ニ改宗被仰付

任職何レモ台命ト日光ノ宮ノ命トヲ請ク幕府帝鑑間

ニ於テ独礼受領時服五ツ白銀拾枚ツナリ代々院家

大僧都ヨリ僧止ヲ拜任シテ 天顔ヲ拜ス法中ノ極官



二置ル格ナリ其中 勅願執行ト申ス長床坊教学院

二院ナリ御日参御禱之神重日々獻上月次

御撫物毎月十九日御引替拜受御日参

御撫物毎歳六月大祭ニ拜受御年中

御撫物毎歳十二月拜受ス其外

御即位始總而御吉例度毎御禱長床坊ニ被仰付

仙洞御所

東宮御所御同様之事月次御代参

御撫物拜受 御即位御吉例之度毎教学院ニ被

仰付依御吉例毎年長床坊ヨリ正五月御祈之神室

并正月四季御品献上ス残ル四院ハ年頭ノ御品献上

先格ナリ然ルニ就 御維新

明治元年戊辰六月十七日五坊共復飾相續於辨官

被仰付長床坊ハ宮本 福寿院ハ日下部 本善院ハ上園

教学院ハ尾崎 威徳院ハ西大路ト改名ス同年八月

廿四日於 神祇官五家共社務職内上席兩名當職被

仰付坊人八拾五人社人被仰付

同六月三日社務社人共總而被免神勤社務五名
士族社人之内拾三名士族被仰付宮本亮周更ニ當
社祠官被仰付

因ニ云當社八畏モ兩宮ニ坐ス大御神等ニ縁シアル
普ク識者ノ知処ナリ 又日ト火ト本源同躰宇宙ニ
在テ八日ト云ヒ物體ニアリテ八火ト云フ雖然終其徳ヲ同ス
然ル故世俗謗ニ云伊勢ニ參宮シテ當社ハ參詣セサレハ

凡參詣ト云忌ノ深キ幽契アルク歟九慮ヲ以不可計

前件引書共ノ説ニ曰愛宕郡ニ鎮座ノ故ニ舊名ニ依テ
愛宕ト云トアレハ不然歟既ニ本居宣長ノ説ニ愛宕ノ名
義ハ火皇產灵神ノ為ニ由母命ノ火ニ焦レ玉ルヨリテ仇
子ト申スフニテ神名ヨリ出タル郡名ナラシ歟ト云フ此ノ説
ノ如ク當社ニテモ往昔ヨリ然申傳ルナリ

社領 往古八壹万餘石追々沿革徳川氏ニ至テ朱黑
印五坊領高六百五拾貳石余配當則目錄村附アリ

天下ノ諸侯ヨリ神領初穂等ノ寄附アルヲ預シメ年ニ
過ク今悉ク止

外ニ

四所明神 當社ノ根社ナリ

清滝村ノ上テアリシヲ天文廿一年壬子松ヶ原甲之森江
移シタレ由當社旧記ニ見ヘタリ方今原邑ト云戸數三
十軒余氏神ト仰キ年老ノ者隔年交番ニテ宮宇ル由
祭神 火産日命 雍州府誌ニ下ノ権現ト云是ナリ

一當社勸請 天徳元辛酉年六月廿三日

一例 祭 六月廿三日 鎮火祭

三月十三日 豊御饌祭

十月ニテ亥日 火白之祭

右何レモ是迄旧曆相用儀

一社殿建坪

本社 端御前也 六拾坪

奥社

四拾貳坪

撰社

九坪

事代主命
古国主命
加彥名命

末社

壹坪七厘

四重合殿

同

七步八厘

三重合殿

同

五步五厘

壹座

同

同

口

神宝庫

九坪

神樂所
社務所

拾三坪半

壹棟

神饌所

拾貳坪

番所

六坪

致齋所

拾貳坪

一旧境内及別

二高古取後分

一現境内及別

社務所
二高古取後分

一旧五坊領朱黑印六百五拾貳石余

一自詠廳距離

京都府ヨリ 三里拾四丁余

但シ嵯峨我村一之華表ヨリ社既
近山阪峠路五十丁アリ

右當社由條取調奉申上惟也

葛野郡第三區上嵯峨郷

愛宕神社祠官

明治八年十月二日

宮本亮周

右取調書目上之條相違無之仍真印付也

右村

右長 小林十郎



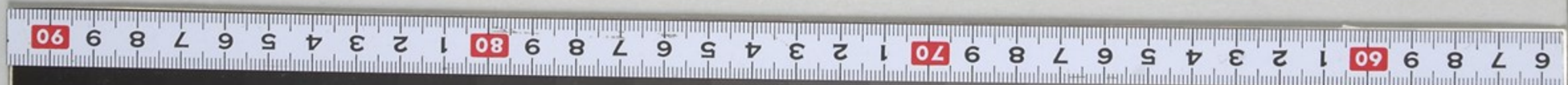
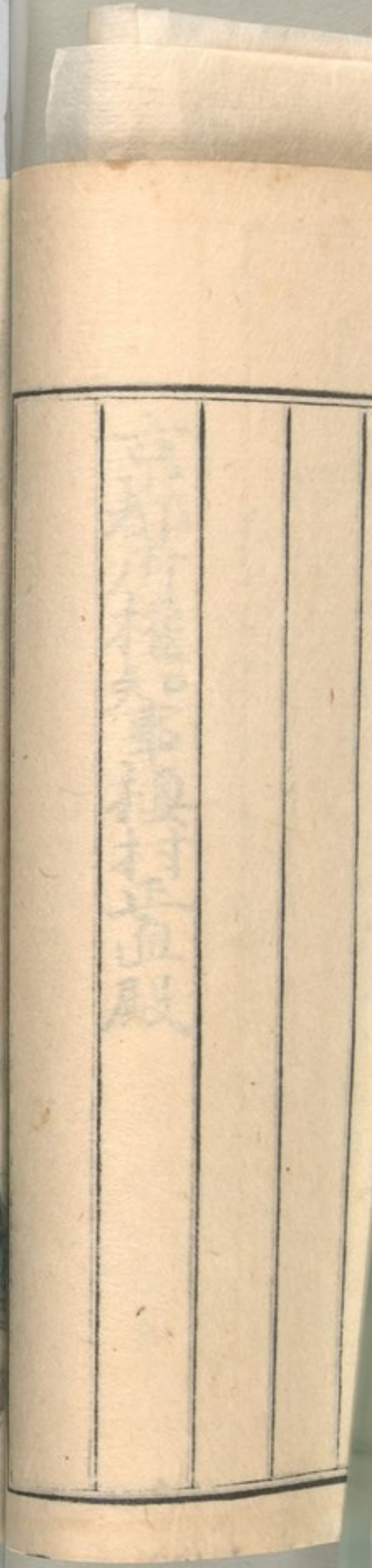
京都府權知事榎村正直殿

KODAK Gray Scale
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9

Black
3/Color
White
Magenta
Red
Yellow
Green
Cyan
Blue



城洲萬野郡乃三匠上嶺郷愛宕神社之圖尾



愛宕神社 2-8-9 | C07002

城洲高野郡方三區上嶺郷愛宕神社圖尾



104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140

愛宕神社 18-6

C07006_1

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10

Black 3/Color White Magenta Red Yellow Green Cyan Blue



城高野郡三區上峯郷愛宕神社圖首

当社権與由縁人々
神下出等々々々社如

神宝市

奥社

本社

神供所

本社

本社

本社

致齋所

香守所

社務所

神樂所

祠官居宅

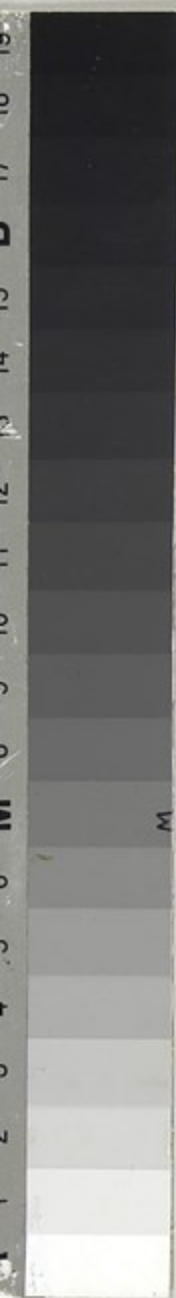
丹波門

京ノ傷門



愛宕神社 2-8-7 C07007_2

城高野郡三上峯郷愛宕神社圖首



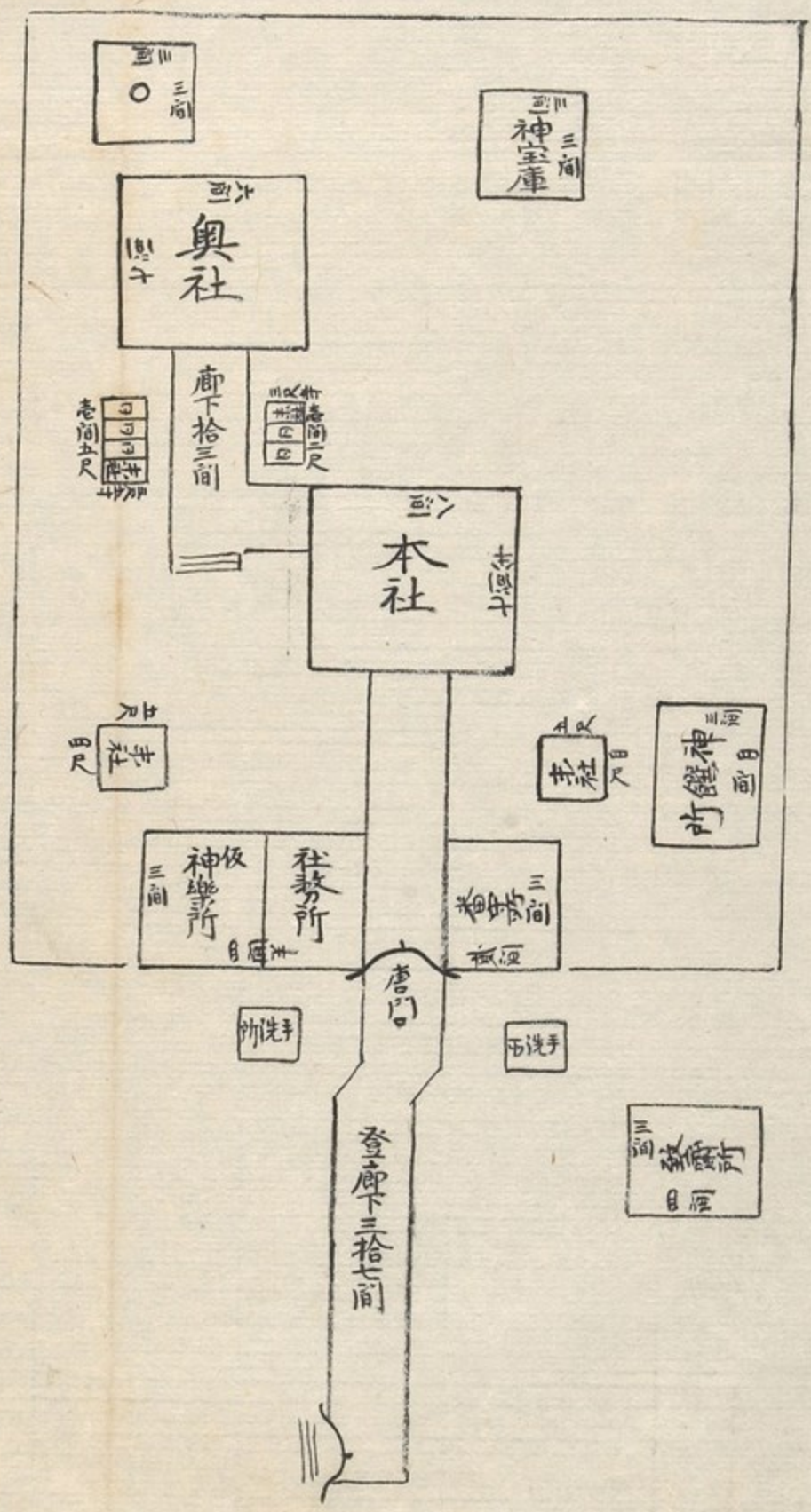
愛宕神社18-7

C07007_1



愛宕神社建物坪数

社地坪数九千貳百貳拾坪



愛宕神社建物坪数



粟田郡式内

十九座

小幡神社考證

其社上申書及
繪圖ヲ後ニ附



小幡神社

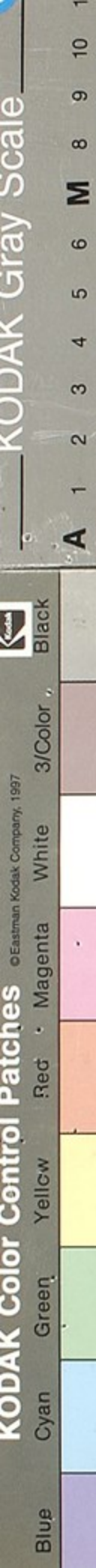
小幡ハ袁波多ト訓ヘシ ○祭神彦座王 開化天皇ナリト

云社 ○同郡第七區穴太村ニ鎮座

按ルニ當社境内古樹多ク殿宇ノ結構式内ノ趣ヲ見
ル此傍ニ神明社アリ是亦古社ナリ粟下漫録云穴太
村小幡大明神式内神也神明社橋ノ下杜ニ有之社
司云往古此社ニ桑の巨樹有之テ上ハうつ不よなり
其所ニ毎年稲を生シ穂出ス仍之村名穴穂ト云

京都府

と云々又は太神宮ヲ往古大和より丹波ニ余射ヘ神
幸ニ時暫止リハまマヤヤ所ノ向カ都名所國會ニ
麩屋町五條上ル神明町東側ニ有之神明社丹波國穴
太村ノ勸請ニ仍之今穴太村ノハ社地存ト有ル此社ノ
外ノ右社地ニも有ル哉ト尋ルれトも外ニナシ此社ニ
小祠も無ク之正シく往古ノの社ト又ハ当境内巨樹數
多有之名所國會の說の如ク曾テ不レ傳ル社司も云
リ關正經々草稿云式内小幡神社穴太村ニアリト是
以考フルニ當社曾テ社号ヲ變セス又旧神主ノ家系
モ明ニシテ今疑フ所トナキナリ



京都府第七區丹波國桑田郡六太村

鎮座 字宮垣内

小幡神社

祭神

疾座王命 開化天皇

由緒

造嘗人皇四拾七代聖武天皇御代建立其後文和元年
細川管領致元氏營造其後天正年中明智光秀兵亂以後
氏子中()終理仕未候
丹波國小幡神社境内六太郷東長谷川限西朝日山限依為
毎年拾七度之大神事亦重役人在所自往古而未替所
々不勤公儀課役也更、應仁亂後無道之輩度々之成違亂
崩敗於境内不恐慮外令忘却勅余事奈可平任先例於當
地者雖向後諸事可停止守護之業者也

永正六年四月三日 義尹判

神主長官

舊神官宗系上田源正直先祖丹波仁永從四位賴章朝臣六
代後醍醐官務中務少輔正五位源朝臣義茂陳仁壽元年源
義正文和元年源正次永正三年源正則慶長年中吉田殿
門勇相成慶安元年九月朔日上田加賀守於吉田家將表
表許天明三年從五位源正陳寅政二從上位下源正茂家
勅許以後當代延連綿神職士表上田正直明永正六年六月
京都府貫屬士表、被仰付之同年六月十七日丹波國桑田郡
六太村出雲神社主典兼訓導持命嗣子上田正定小幡神
社初代持命以候

勸請年月 神龜年中月日不詳

例祭日 九月廿一日

丹波國桑田郡多七區穴太村

小幡神社

右神社之儀は所古書式之座之葛占
取調出書交別紙書載之通相違字様
少書召此殿申之先以之

明治六年月

右社御宇

上田正定



右村三長

齋藤允五衛



京都府權知事榎村正直殿

栗田郡式内十九座

走田神社考證其社上申書及繪図ヲ後ニ附

走田神社一本達

五葉地 玉依那ノ語字

走田ハ波勢多ト訓ヘシ ○祭神 彦火火出見尊豊玉姫命 鸕鷀草葺不合尊ナリト

云 ○同郡第三區餘部村ニ鎮座

按ルニ當社ハ氏子四百戸ニ過キ殿宇境内ノ結構嚴然タリ鹽魚云走田大明神畠城より廿余町西延喜式ノ丹波國栗田郡走田神社ト有當社内陣中の床ハ地神五代菁不合尊の小子の神形あり左の座ハ同四代彦火々出見尊右の座に鎮座まは女体ハ玉依姫也日

京都府

本記ヨ曰豊玉姫彦火々出見に告々曰妾子産の時願ハ中略は刻他の婦人を取テ乳母をか々ハ供ニ養育シ奉々々ハ此神縁ヨハ當社前左の方にみた々々御池とハつふあり乳の祈禱に此池水をハ用ゆハ時々乳みた々々ハ神妙也故ハ壺乳味池ハ申又不鳴川ハ社頭ハ下より清水涌出村御の養ハいとをハ是も龍宮のハ所ハよつハ海人のハ身ハに預り給ふ故あるべハ其外當社の使令にハ灵亀ハを崇申ハ爰も此由緒あるハんハりハへ神田祭ハ爰も嚴重ありハる天正の兵乱ハに悉く没収ハきハぬハをハ終故実傳来の社記も有ハと是亦紛



京都府

失しきるより依社頭造立の藍觴も其事斗りか
とぞト来下漫録及關正經カ草稿ニモ又此趣ヲ述
リ是以テ考フルニ當社モ又式内ノ疑ナキモノナリ

京都府第三區桑田郡餘部村

鎮座 字走田

走田神社

祭神

素戔火火出見尊
皇玉稚命 鸕鷀草葺不合尊

由緒

不詳
延喜五年十二月廿八日從神祇官御神侍御
遷ノ田田神官家系永正九年ヨリ若林右
二門神勢ニ當代若林茂進十一代相勤明治六
年六月元日

初請年月

和銅四年三月十八日

例祭日

九月十八日

社殿建坪

拾三坪八厘

境内反別

壹町五畝步

旧社領

無之

氏子戸數

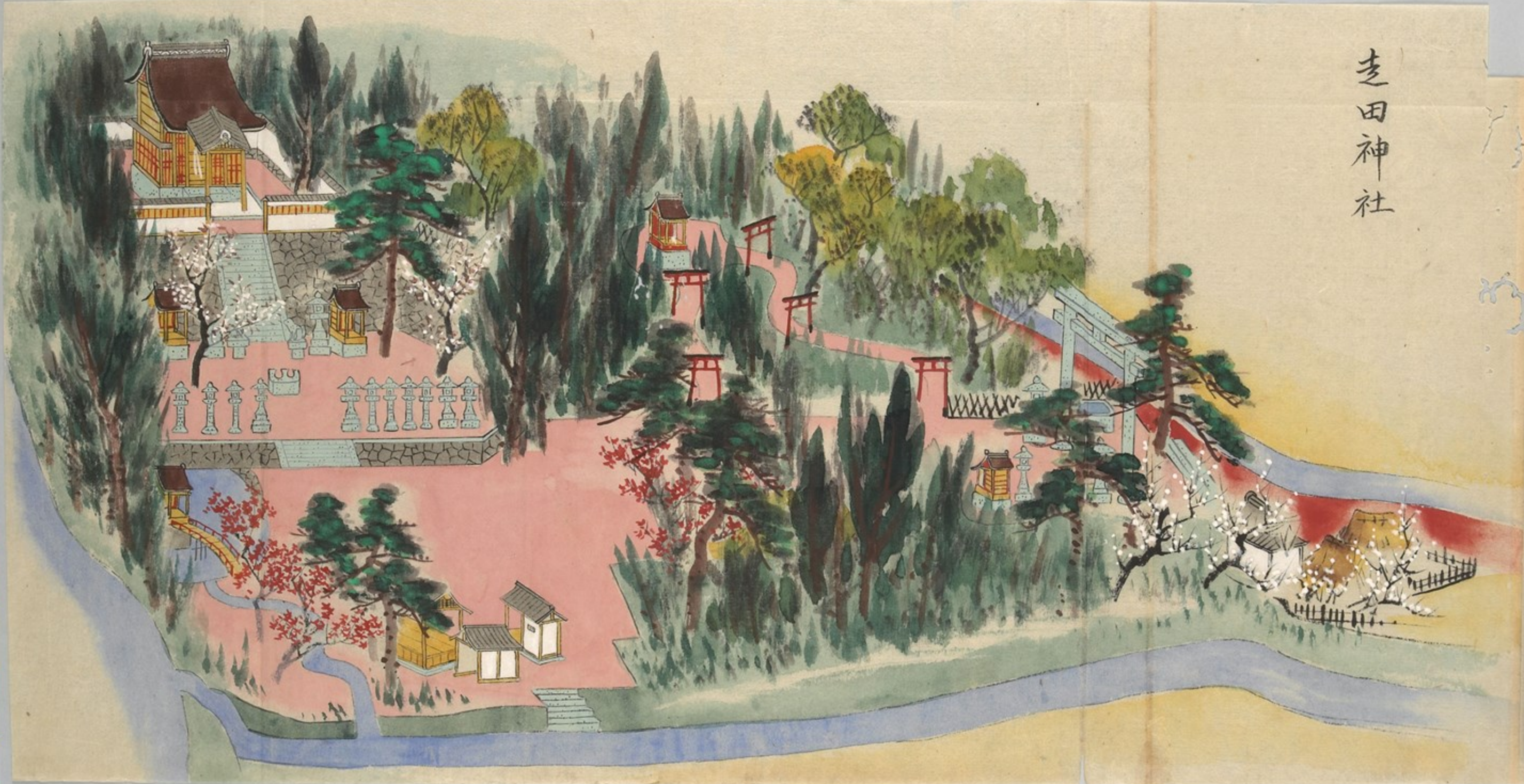
首三拾軒

自該廳距離

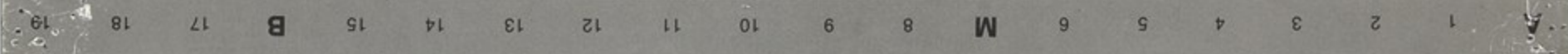
六里一町

以上

走田神社



走田神社 8-9 C07009



KODAK GRAY SCALE

美濃郡式内十九座

松尾神社考證旭村松尾神社上申書及繪圖ヲ後ニ附

松尾神社

松尾ハ麻都乃哀ト訓ヘシ○祭神大山咋神○同郡葦十

四區旭村ニ鎮座ノ神旭村元美濃田村ト云考證ニ保津村ニ在ス今浮田大明神ト称

ストアレトモ今從ハサルナリ

按ルニ松尾神社ハ當郡ニ三所アリ一ハ旭日村一ハ

犬耳野村一ハ油利村共ニ其村ノ産神ニシテ境内最

古趣アリ衆下漫録云美濃田村氏神松尾大明神式内

十九座ノ内ナリト關心經カ草稿云式内松尾大明神

京都府

美濃田村ニアリ當村ノ田地中ニ古木ノ二本松アリ

松尾明神往古ノ旅所ト云正經按スルニ小川御油利

村ニ松尾明神別院庄犬耳野村ニモ正一位松尾明神

アリ当所ト合テ郡中三ヶ所ニ各松尾明神アリ式内

ノ社何レト定メ難シ世人多ク誤ル予今偏歴ノ三所

共ニ其古實ヲ正スニ當所ノ明神延喜式ニ載ル所ノ

松尾ノ社ナルベシト考尚後實ヲ俟ト今ヤ其社ヲ探

調スルニ共ニ確證ナシト雖モ犬耳野村及油利村ハ

曾テ式内ノ説モ聞ヘス獨リ旭日村ニ於テハ古来ヨ

リ式内ノ神ナリト傳ヘ又其神社ノ所在社地ノ景况

京都府第拾四區京田郡旭村

鎮座 字 宮山

松尾神社

祭神 大山咋命
市杵嶋姫命

由緒 不詳

舊神官家系者慶長八年正月川勝伏渡
中者在職夫より當代川勝波迫八代
神職相勤儀

初詣年月 初朔年中

例祭日 九月九日

社殿建坪 三坪

境内及別 町及歩

旧社領 無之

氏子戸數 百五拾五軒

自該廟距離 七里半

以上



松尾神社



松尾神社-8-10 C07010



KODAK Gray Scale



兵田郡之内十九座

伊達神社考證津根村上申書及繪圖ヲ後ニ附

伊達神社

伊達ハ以多天ト讀リ○祭神不詳或人云五十在所同

郡第十區津根村宝蔵寺中ニ鎮座スル小祠是歟

按ルニ當社ハ古來附會ノ説ヲ作スモノアリテ正傳

為ニ詳カナラス其説云法蔵寺ノ境内文治年中奥州

秀衡カ三男泉三郎忠衡カ別荘ナリ泉三郎任ニヨリ

テ五年在京ス時ニ字津根村ヲ采地ニ賜フ故ニ爰ニ

於テ館ヲ構ヘ鳳閣守衛ノ暇以地ニ逍遙ニ村長ノ娘

哀濳珠

ヲ妾トセリ而テ任滿帰ントスルニ臨ニテ夫妻腰脛

セリ云々終ニ女子ヲ生女子長ニテ父忠衡ノ靈ヲ祭

テ伊達宮ト称スト嬰奥云伊達宮ノ權輿志説あるク

一時代をるる後の忠衡を祭する祠を延喜式ニ載哉

今思に延喜已前より以所子伊達の所縁有テ神社を

置る成へし仍忠衡も以里子館子攝られ志と見へく

リト又村民伊達ヲ名乗モノアリ皆忠衡ノ所縁ヲカ

ク其説信ルニ足ラスト雖モ奥陸國巴麻郡類社ア

レハ奥州ノヲ引ハ又由來ナキニ非ス

類社

丹波國牟田郡伊達郷伊達神社

伊達神社

伊達神社之傳據經云其本乃唐之華山
取御以爲山祀遺文亦云其所以祀
由終其詳其得果古名之傳從其書其
伊達之宗廟爲山部之曰武之伊達
神社之則是其上之書傳其書其者
到紙之通其是也其書其書其書其書
申上伊達

明治二年八月

伊達神社

清水為久



伊達郷長

中島七加助



京都府權知事榎村正吉殿

京都府葛城郡桑田郡宇津根村

鎮座 宇津根

伊達神社

祭神 五十極命

由緒 不詳
四神宮家系無之

初詣年月 不詳

例祭日 六月下三日
十一月下三日

社殿建坪 五坪五寸

境内五別 三町三寸

旧社領 無之

氏子 無之

自該廠距離 五里三寸丁

以上

桑田郡式内十九座之内

大井神社考證其社上申書及繪圖ヲ後ニ附

大井神社

大井ハ於保為ト訓ヘシ○祭神社説云木股神月讀命也

古本書入ニモ月讀命ナリト云○同郡桑田區並河村ニ鎮座

按ルニ鹽眞云大井大明神龜城より臺斗西大井村
村並河村外六ヶ村の産神之社僧曰所祭の神ハ中津
大神ありと社頭造立の歳記ハ天正の兵乱に焼失し
されハ今考ふるに便りある里民の口号に上代山城國
松尾神社自形の中津大神龜にのりて大井川を登り

京 濛 珠

ぬふに八疊岩の辺より水勢強うりしうバ鯉に樂う
つりぬふて今つふ在元測まて来りぬふ折ちも近郷
の工匠正業といふ者是を見奉るに異形の尊体た、
人にあふにふりてつうあると問奉れハ曰く松
尾の中津大神也此所に跡を垂んと思ひ来れりと工
匠の曰我京都へ要用有て往者也我うへんまで此
所ニ在し給へ帰郷して社をまつむ鎮座すを奉と
誓約し京へ行ぬ數日過て帰り見ると元の所に居ぬ
ふ依て社を建偈仰し侍るとを其後近郷より尊敬し
奉りて大井村へ再び鎮座あり奉りしとを前に鎮座



はしし一河ハ勝村島の堤あふふ今に其所ニ社を
建村人松尾宮と崇奉る此所若ハ延喜式ニ載る所の
松尾神社マヤシふう一神休工匠の言葉にたゞり
水上にたゞふ居ぬふにより元の所ハ在りとの申
へ在元端と名付工匠の在所正神を先達て見奉ると
の心に神前村と号に仍近比近ハ神支正モ神前村よ
りいとるみい今ハ其事と絶て大井並河より祭支
取行毎年九月十六日神前の馬場はねりて流鏝馬あ
り又云明神之額ハ片桐市正の寄附るり又云社僧曰
傳來の書物は城洲乙訓郡松尾月讀神と云何々不

京湊 珠

詳と也ト兼下漫録關正綱々草稿又其趣ラ云以上ノ
説源信スルニ足ラスト雖モ考證ノ爲茲ニ引用ス

類社

山城國乙訓郡大井神社ノ條見合スヘシ



京都府葛城郡桑田郡並河村

鎮座 字大井

大井神社

相書画園主板下子豆

祭神

木股命
月讀尊

由緒

不詳
旧神官家系無之

勧請年月

不詳

例祭日

七月十九日
九月十六日

社殿建坪

八坪半

境内及別

町及八畝五分 四畝五分
五畝五分

舊社領

無之

氏子戸數

四百廿五戸

自該廳距離

分里

以上

丹波國赤田郡赤松區並河村

大井神社

古神社由緒並書式之屬取調
法其為日記遺文等之其得共
式内大井神社之古邊無之其奈若
別紙書載之通之其此所書申
上之以上

明治二年八月

赤松町長
清水為茂

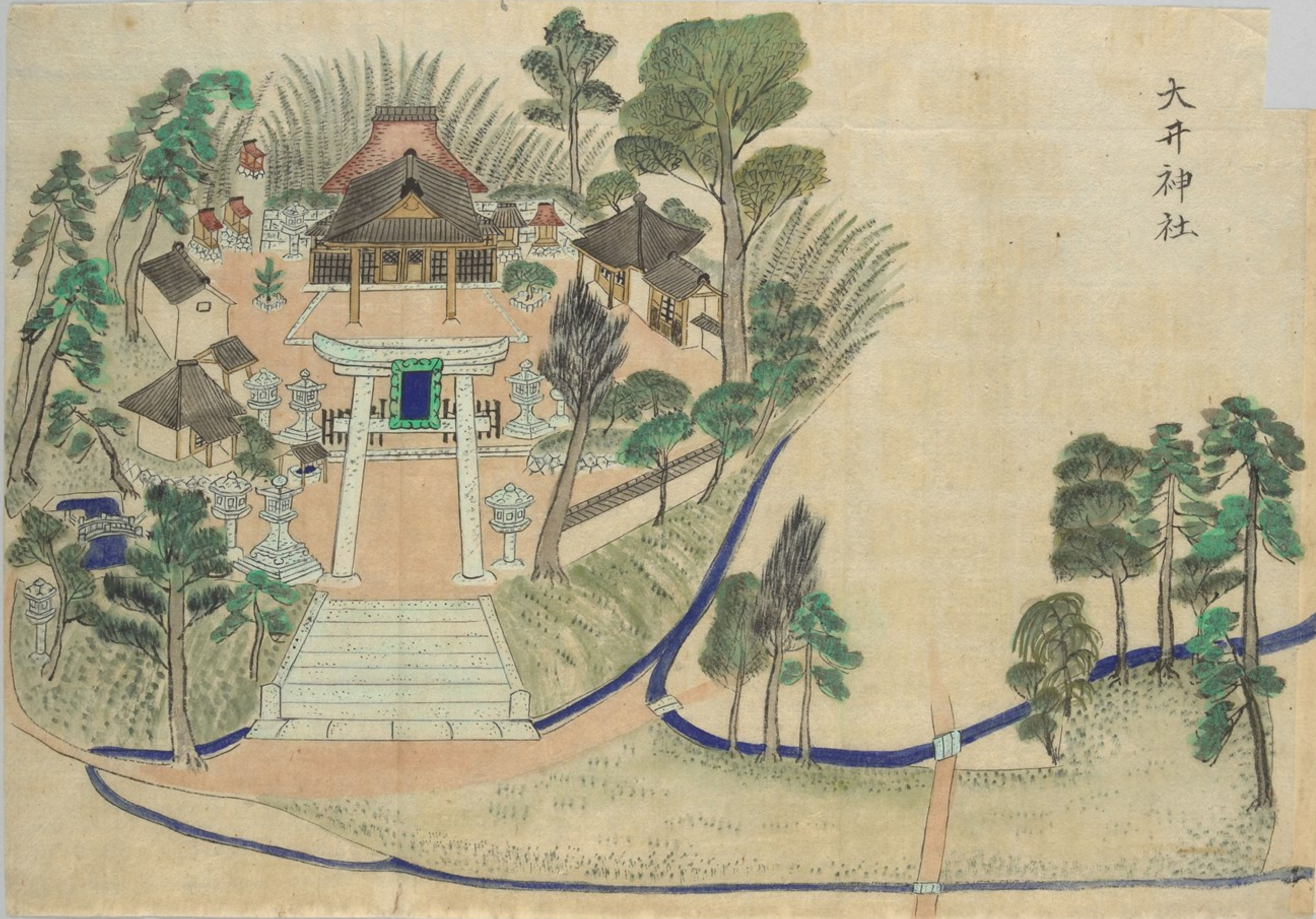


赤松町長
松尾謙三郎



京都府權知事模村正五殿

大井神社



KODAK Gray Scale
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10
KODAK Color Control Patches
©Eastman Kodak Company, 1997
Black 3/Color White Magenta Red Yellow Green Cyan Blue

7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1

石穗神社 8-13 L07083

桑田郡式内十九座之内

石穗神社考證

石穗神社

石穗ハ伊波保ト訓ヘシ○祭神不詳考證云土佐風土記云天石帆別命天石

門別神子也○在所不詳

按ルニ當社蓋廢亡スル乎今考證ノ可由モノナシ

京都府

桑田郡式内十九座之内

與能神社考證其社上申書及繪圖ヲ後ニ附

與能神社

與能ハ假字ナリ○祭神事代主命健御名乃命ト云○同郡桑田區寺村ニ鎮座

按ルニ當社ハ近隣ニケ村ノ惣社ニシテ社禮莊嚴尤美麗ナリ關正綱ノ草稿ニ云與能大明神寺村ニアリ諸國鎮座神秘鈔云 崇神天皇御宇以丹波道主尊為將軍桑田郡祭三座之神社三宅神社山國神社與能神社是也丹波道主尊者人皇九代 開化天皇孫茂坐王

哀 猶 珠

茂八之子道德武備之勇將也本朝編年細要錄ニモ亦出タリ 嵯峨天皇御宇於丹波國三所神宮寺御建立有之其一與能神宮寺伽藍是也此時太神宮春日社御勸請有之兩社間被置神宮寺故事代主健御名乃合四野宮申弘法大師依 嵯峨天皇勅於神宮寺皇院露堂護摩修行藥師不動觀音示現有之見無殊傳亦出種智院雜事略事代主健御名乃事神祇周方廣記見神名帳國分式次第曰但波桑三社事代主神社者桑田郡與能社 後嵯峨院御宇御母二位殿丹波桑田郡内村山與能八出被進其後佛事等御修行有之與能寺神領沙汰

且御震筆仁王經法華經被納時院使左史生常伴也以
時明神被贈正一位丹波少將成經鬼界嶋流人時門脇
宰相殿娘簾中御祈師漁軌法印丹波國出雲社并與能
社御願書捧御赦免後神宮寺持尊佛最勝王經并神領
寄事平家物語有之其外鶴子寺見云々種智院雜事略
云桑田郡四野露社神宮寺二階堂料五千束主稅司納
也二階堂旧地在寺北四町許今但存大塔及諸堂基趾
也今御族所是也以正皆正綱
ノ草稿ニ出以社則中世災害ヲ蒙ラ
ス依然トシテ曰礎ニ鎮座ス式内ノ分明ナルモノト
云ハシ

京橋 塚

神位

三代實錄仁和二年十一月十四日己丑移丹波國正六位
上為與能神位五位下



京都府第六區東四郡寺村

鎮座 宇宮山

與能神社

祭神

神代主命 健甕名乃命
天照皇大神 天之子八根命

由緒

崇神天皇御宇丹波道主ノ命ヲ以テ爲
將軍兼田郡ニ三座ノ神社ヲ祭ル給フニ宅
神社山國ノ神社與能神社是也
丹波道主ノ年人王九代開化天皇庚子
辛ノ子母息長水依姬道徳武備ノ勇將
也與能神社ハ此時ノ鎮座也

初詣年月

崇神天皇十年月日不詳

例祭日

九月十五日

社殿建坪

五拾三坪三厘四分

境内石列

七百廿坪 四坪 二万四百廿拾六坪

舊社額

無之

氏子戸數

四百廿六戸

自該廳距離

六里廿拾五丁

以之

丹波國美由郡美由區寺村

與能神社

古神社之儀由諸花諸屋之取調
法并之爲列錢書載之通如遠世等
皆此所奉申上其以上

明治二年八月

町長

二階堂之重

町長

岩崎忠助



京都府權知事植村正道殿

與能神社



Handwritten text on the right edge of the page, likely a title or reference number, written vertically in cursive.



栗田郡式内十九座之内

多喜神社考證向山村瀧神社上申書及繪圖ヲ後ニ附

多喜神社

多喜ハ假字ナリ ○祭神不詳古事記云天押帶日子命者多紀臣祖 ○在所

不詳神社叢錄云向山村瀧大明神故

按ルニ同郡第二十四區向山村瀧大明神ハ瀑布ノ頭

リニ鎮座セリ故ニ社号ト為レルカ此社古社ナレト

モ由緒不詳式内多喜神社トハ定メカタクシ

類社

美濃國多藝郡多夜神社

哀 勝 珠

京都府下丹波國桑田郡第廿四區向山村
鎮座字宮ノ谷

瀧明神社 多喜ノ巖ニ社地有之
祭神多伎都比古命

由緒日記無御座寶永五年
三月元神祇官吉田殿ヲ正位

ノ號奉受授正位瀧明神稱不
當社神官無之同區櫛原村

大原神社ヲ神官有社幣仕
來候處當時祠堂藤田元良社幣仕

桑田郡

勸請不詳

貞治五年再建

天和貳年三建

祭日九月十六日

社殿建坪四坪 諸所六坪

境內及別四境內五反歩
現境內六反歩 從前村方ヨリ
上納仕來候

社田段別八畝拾五歩 從前村方ヨリ
上納仕來候

舊社鎮朱黒印并舊藩寄附無之

氏子貳拾貳戸

府廳迄距離 拾三里

國郡置土藤藏版

右之通取調相違無御聖候此段
御土御奉申上候以上

右村戸長

明治八年八月

大澤藤右衛門



前書曰之通相違無御聖候間與印仁候以上

區長

内牧長左門

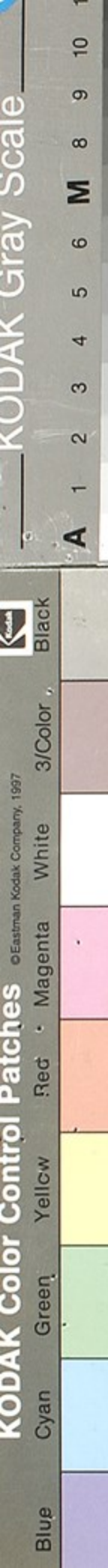


桑田郡

言奉付權筆了

梅村正直殿

園部富士藤被版



多喜神社3 8-15 L07091

栗田郡式内十九座之内

村山神社考證其社上申書及繪圖ヲ後ニ附

村山神社

村山八年良夜麻ト訓ヘシ○祭神大山祇命頭注社説共ニ然リ

鹽魚ニハ素盞鳴尊ノ蛭跡ナリト云傳フトミヘタリ○同郡葦壹區森村ニ鎮座

按ルニ鹽魚云村山大明神亀城より廿余町程巽森村

といふ所ニ有則此辺三四ヶ郷の産神也延喜式神名

帳子も村山神社と記さり上代明神嶽より此所へ移

らせぬふころ素盞鳴尊の蛭跡ありと云傳り往古

ハ社地も廣つりしより今野奈村といへる所に鳥

京都府

居の沓石ちんと残り栗下漫録云一日此石の有兵所を尋れとも知者あり

革の比焼失せしを應永廿七年渡辺六郎頼方再興を

ふれし由大般石一部社中に納む六郎の寄附と云リ

頼方堂上に有縁の人あり官女上臈へ社宇建立経卷

寄進を乞れりちんころにおろし上臈上童稚經

の助みと常になれし歌書艶書をと抛て現當の冥

福を祈りし由仍て經文の裏ニ粘りたるハ残り女

筆栗下漫録云以經不斷ハ室藏ニこめ正月十六日別當神前ニ轉護を乞て見しにそくく裏ハ女

筆明神右ニハ八幡の社あり是ハ應永年中の勸請

之惜哉そのうみ回縁に社記もさされてさころなる



KODAK Gray Scale
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10

KODAK Color Control Patches
©Eastman Kodak Company, 1997
Black 3/Color White Red Magenta Yellow Green Cyan Blue

7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1

村山神社2 8-16 L07093

京都府

伊豫國宇麻郡村山神社
類社

去々村の長の語り侍りぬ下關正綱ノ草稿ニモ又此
趣ヲ云リ所謂明神嶽ハ鍛山神社ノ條下ニ見エ此社
式内ノ疑ナキモノナリ

京郡府芝草通章田初成村

鎮座

字宮山

武
村山神社

祭神

大山祇命
木花咲彦比賣命

由緒

舊記等、天正之兵火、罹り焼失、江嘗今日緒
不詳、惟道古、（下）武田神社、（上）福之、（中）
異説、（左）中座、（右）神鏡、（正）之、（後）

神官系系累代、（左）連綿、（中）神勅、（右）仁孝、（正）之、（後）
年月、（左）村山神社、（中）初成、（右）祥符、（正）仁、（後）

初詣年月 不詳

例祭日 十月廿八日

社殿建坪 谷割坪

境四方別 千三百坪 舊境日 八千七百十坪

氏子人数 百九拾五行

自該廳距離 五里

以上

丹波國桑田郡多田區村

村山神社

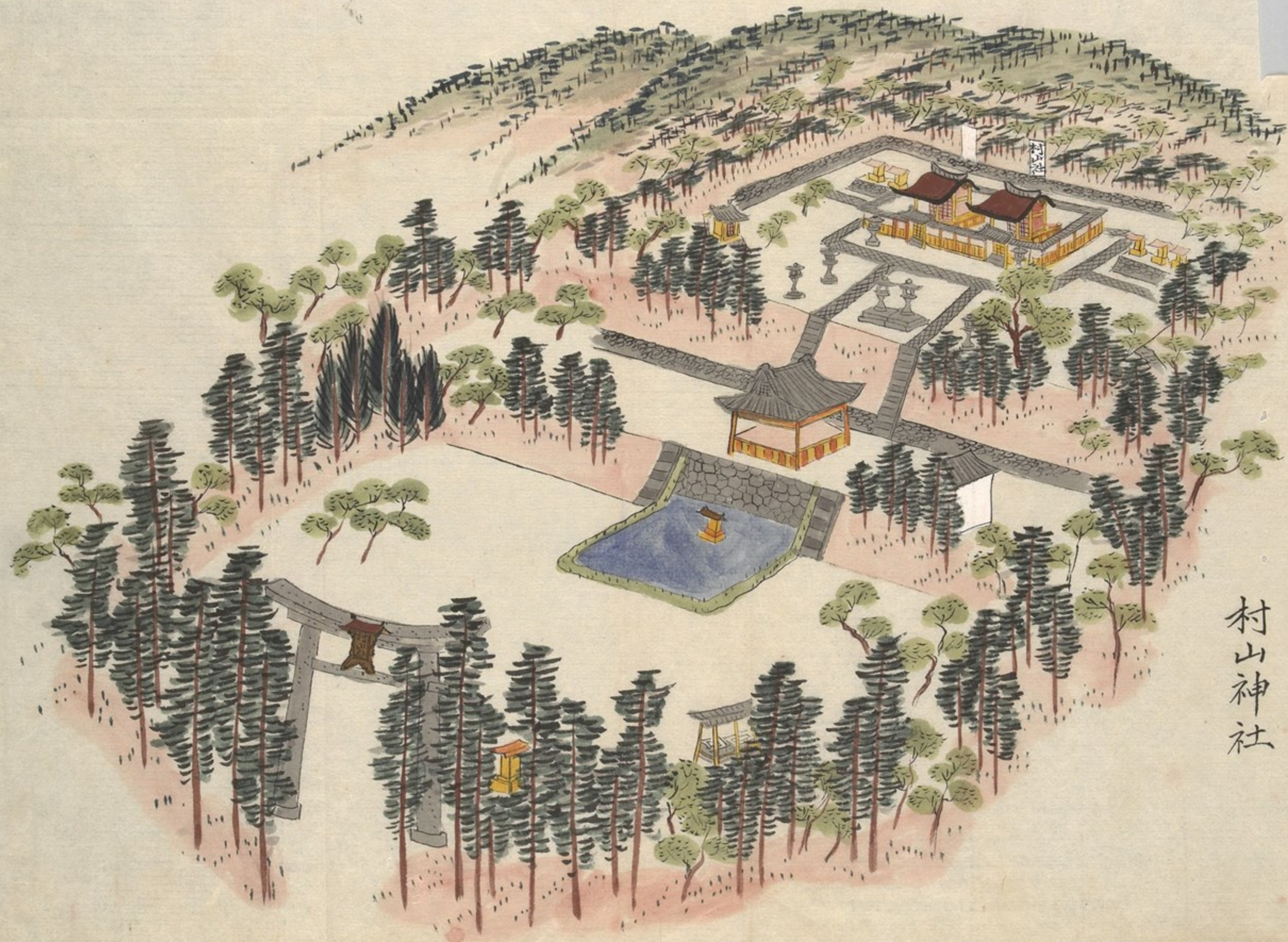
古神社由緒並古證本篤取調仕共
番田記書類等天正年中之兵火燒
失往更ニ無之生得共從往古式村山
神社卜稱ニ宗致仕共極古老ノ傳説所
産共余者別紙書載之通お邊無所
産共此段奉申上仕以上

明治八年八月

村山神社
上島 意要

右同村
石野吉右衛門

京都府權掾榎村正直殿



村山神社

京都府權知事榎村正直殿



村山神社 8-14 | C07014

桑田郡式内十九座之内

鍬山神社考證其社上申書及繪圖ヲ後ニ附

鍬山神社

鍬山ハ久波夜麻ト訓ヘシ○祭神大己貴命ト云社説盟魚ホ然

○同郡葦三區上矢田村ニ鎮座

按ルニ當社ハ當郡ノ大社ニシテ産子千三百餘戸境

内潤大ニシテ殿宇莊嚴ナリ土人此社ノ由來ヲ記ス

ルモノ頗ル多シ與奥云鍬山大明神龜城より十七八

町南矢田村ニ鎮座まゝはい亀山の産神也自國成之

初鎮座于此ト社記に見ヘリト社家相傳曰天地始

京都府

分洲壤既成而後有一泥湖大蛇之所潛也于時出雲大

神會八神於黒柄嶽議之曰此水底豈無國歟泛一葉之

舟奉一祀之鍬自浮田峽隨流放之水清泥凝州木焉

人物産矣而此邦恭奉也名之丹波國桑田郡因舎于天

岡麓奉崇鍬山大明神此神乃由雲大神也是故年次神

無月由雲國之神會我神獨鎮座以國之人誰不由此神

德乎何不崇之鹽魚云社記ヨミ申ル無跡大己賣尊ト知ヘリ記中ハフモシハの神トハ保津

山本請田宮廣田田能村の櫻船宮牧生小泉東掛村の産神都てハの神ちり黒柄岳とハ城南一里餘にニの

高峰あり東を明神嶽といハ黒柄嶽ハ牧生村みよば左山之浮田の岫とハ山中の谷合也天岡の麓と記を

るハその明神の鎮又曰坂上康頼世領以地常尊敬當座の後山なり



祠也深矣遂有神助而得醫名蓋以當祠及大己貴命之
所夢而醫療之祖神也欣天岡之北麓有醫王谷之名又
曰天正四年六月明智日向守光秀入此邦始築龜山城
賦神戶收祭田矢田之祭禮遂廢矣祠官唯存菱田一氏
耳後置禮舎一房號新防使職神吏又名大智院之神輿
祭八日祭庭燎神樂競馬相撲振樂等於此時而亡矣御
旅所築田油田辛田八日田相撲田馬場田雜用田奉射
田之地皆收之下天正十九年金吾中納言秀秋當社
ニ設ル所ノ禁制札并燈明料ヲ寄ルノ状及文錄四年
關白秀次公ノ設ル所ノ禁制札亦皆歛山大明神卜書

京都府

セリ神宮寺ノ鐘銘ノ序ニ曰丹波之國桑田之郡有村
曰矢田歛山社在焉此社也延喜神名帳既載之其從來
尚矣傳稱昔由雲神降於此國之別院黑柄嶽八神從之
于時國中地勢不分水脉不通命歛山神治之神鑿山本
谷通水而田畝既藝村里既宅以斯功立此社往古渺茫
無載藉之存未可考之憶文素蓋雄尊巡此國使此神平
水土作大禹之業乃有其功乎斯地山高谷繞川流縈紆
古木蒼鬱龜山之城峙由其畔誠是靈神之遺蹟也社辺
有一社村諺曰永萬之年有靈現八幡神光之所託也云
乃此社歷世守斯土之人無不尊崇之今城主松平氏之

家臣屬士村老里民皆奉祠此社類繁為祭猶勤不怠維
寬文十年庚戌初冬三月城主之家臣屬士及村老里民
各言議築一鐘樓於社邊新鑄巨鐘懸之以禱長久之福
而使報刺之用諸余作之銘余未到其境然畧聞其里巷
之說且考脫簡之餘因記一二以塞其需耳銘ハ今畧シ
テ載セス
延宝元年土人松原守親十人祠記ヲ作テ曰丹波國
桑田郡矢田村坐嶽山神社者延喜神名帳載之同八幡
菩薩神社者式外之垂跡也往昔之亓不可考天正之間
明智氏據有畠山專侵我祭田社家者逃遁四方自失其
職爰祈年之祭禮於是始寤臨時之救除至今終上搏風

京都府

傾側瑞籬頽敗枯木自橫落葉堆積唯烏啼狐還於林叢
之間者既三十年慶長之末前太守里部長盛立神廣寬
永之間後刺史常沼定芳封祭田兼應之初今牧君松平
忠晴再建石萃表寬文之末里人鑄鬼鐘或人書之銘謬
當祠為素盞稚尊余嘗讀日本書記偶得符合里謠而大
喜遂以謹書嶽山之祠記矣於八幡宮之亓跡乃嘗見無
所考之唯掘土俗之口傳而已玄古天地開闢而後陰陽
二神分巡國柱乃生成以刈壞也神功既畢靈運方還矣
自後國中有所不成者大己賣神獨能巡造遂到此國于時
淳水汲山浪穗秀起土民山上惡歎城南
有二於皇神在南嶽



高峰一望竭郡中東言明神岳西言黑柄岳即彼小角所涉也有浮圖之舊跡中古諸刹悉放蕩只有佛像數軀里俗取之托神祠之間周及南視水脉地勢而順流決之城山諸村矣今俗以為神体也

有坡諸水因是泥湖已涸桑田既藝曾是降丘宅土強暴達城州入南海

磐石草木皆已摧伏焉後世傳其荒芒之世而名之丹波以其經營之功而郡名之桑田土俗感其恩賴而奉祀焉以歛為神之主矣竹庵曰每歲十一月初三庭燎之日祇宜蒙主皇荷薪以言神功今則亡矣

竹菴氏山本名教信世々矢田人也以天正丁丑之年生矣去年九十有八叟之幼時兩社之祭祀其法畧傳三

論曰土俗口傳鴻荒之世是國泥湖也其水西流矣則今水戶岬是也然有吞人大蛇出雲神領八神

浮田祠主鋤村山祠主箕之類到黑柄嶽斬殺彼

京都府

蛇流血湛浪乃鑿山疏水國始闢矣即今浮田岬是

山本谷也

考之本紀大己賣命其德業合之經津主神亦雖有周流

消平之功而里謠不傳則不取之何以擬之素盞高尊

乎

人見友元書鐘銘曰憶夫素盞高尊巡此國使此神平水土雖不直言當社即素盞高尊也似為素盞高尊之所

變也蓋出雲大社是大己賣命而非素盞高尊矣寬文甲辰十二月社僧兼欽弟子乘仙同時病疫而祀余父家茂

籍其什物而付之看時圓寶當時內寶職社受同庚戌鐘成請銘于東武之友元從內寶之草案而書之內寶不

知社家相傳之說只聞其一二漫書之因之傳誤耳又據風土記往古大江山之西

篠村東有巨池大蛇食人嘗有夫婦過其畔者婦既食夫

亦吞夫乃乘斂斬割蛇腹而偶得生活矣于時池水成赤

起波因之名丹波國歸路遇野于從者喜幸免而名之生

野矣今按大江山之西篠村之東其間僅二三町計有溪
流名鴉川地形不以可湛巨池潛大蛇也生野乃屬福智
城相遠二日程也此書乃脫簡之餘其說難信之不如國
傳之地勢水脈有據焉今計浮田岨其闊者二三十丈隘
者不十丈耳嶮巖峭壁兩岸犬牙今歲四月甲辰大雨諸
川大漲岨口不通乙巳初晴北河俄漲城外民家皆々湖
水無邊際若夫數日岨口不降則棄田可再湛乎湖海矣
ト此餘當社神縁又八幡社ノ神縁ヲ記スルモノ尚多
シ附會ノ説多ケレハ盡リ之ヲ載セス所謂遂古以地
ノ泥湖ナリシヲ名神之ヲ洞決ストハ蓋シ實傳ト云

京都府

ヘキカ今彼明神獄ニ登テ瞻望スルニ巨水所謂浮田
岨ヲ下ラスニハ此地必ス江湖タルヘシ浮田岨西側
ノ嶮巖崩墜ノ痕迹尚分明ニ存スルモノアリ神功ニ
非ニハ誰能此勲ヲ奏シ○又按ルニ社傳ニ當社祭神
ヲ以テ大己賣命トス其説由來久矣松原守信力記中
一月初三庭燎之日祢宜蒙玉鼻荷薪以言神功ト此神
功トハ前ニ出タル社傳ノ記ヲ假名讀ニ誦スルナリ
竹庵天正丁丑ニ生タル人ト云ハ雖然推テ之ヲ考ル
則岨傳ノ由來久シキヲ知ルヘシ雖推テ之ヲ考ル
ニ所謂出雲天神八神ヲ集ムトハ出雲村ニ坐出雲神
此神ハ大己賣尊ニシテ當社則岨八神ノ内ナルヲ古
妻三穗津姫ト云
來ヨリ誤傳シテ大己賣命ナリト称スルニ非スヤ



京都府第貳區桑田郡上六田村

鎮座 字天岳山

歙山神社

祭神 大己貴尊

由緒 不詳
舊神官家系無之

勧請年月 不詳

例祭日 十月廿五日

社殿建坪 七拾方坪

境口反別 二反七畝拾九分

舊社額 高印拾七石貳斗參
菟田城主印代々守齋進狀

氏子戸數 千三百戸

自該廳距離 五里拾三町

以上

丹波國南郡美土區上吉田村

鍬山神社

右之神社由統正謂以古屬山記遺文
亦更之申之也得真式內鍬山神社
遠山無之山記山城之代山宗教之神
社之神社此所奉申上之以上

明治二年一月

天國

厚見



善田

孫右衛門



京都府權知事植村正五殿

鋤山神社



鋤山神社 51-8-15 C07015

桑田郡式内十九座之内

稗田野神社考證其社上申書及繪圖ヲ後ニ附

稗田野神社

稗田野ハ比江多乃ト訓ヘシ○祭神不詳社説云大山祇命ナリト或云仲哀天皇應仁天皇

命ナリト或云仲哀天皇應仁天皇神功后皇ナリト未其據ヲ知ラス○同郡第九區佐伯

村ニ鎮座此地ノ字ヲ稗田野ト云

按ルニ當社境内廣大ナラサレトモ古樹繁茂ニ社頭嚴肅ナリ則近隣四百五拾余戸之ヲ土産神トス當社亦附會ノ説ヲ為スモノ頗ル多シ今之ヲ録セス雖然蓋ニ式内ノ神社ニハ疑ヒナキナリ

京都府

京都府葛九區桑田郡佐伯村

鎮座 字 禊田野

禊^式田神社

祭神

大山祇命
保食命
野椎命

由緒

不詳

舊神官家系寛喜元年ヨリ累代神職仕

明治六年六月延柱次郎世襲之曰月免職ス

勸請

和銅二年七月十四日

例祭日

八月十四日

社殿建坪

拾四坪

境内反別

四五拾方歩

舊社銀

無之

氏子戸數

四百軒

自該廳距離

七里步

以乙

丹波國美田郡美田道依伯村

禊野神社

古神社之儀四部遺文六部之由
諸石祥其得具或因禊野由部社之由
無所記其全列紙在御書也添以假
事申上其以上

古社初官

楠 在之進

明治二年八月

古村戶長

大石平三郎

京都府程知事 榎村山道殿

稗田神社



京都府... 稗田神社

